836
209
3

蓑草年録

鬼報録 外録

九十七

国立国会図書館　　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

鬼報録第十輯

戊辰六月

目録

一 小室邊探索申立書 六月朔日
二 政府日記抄 全
三 秘説并紀聞 自六月二日 至日七日
四 金児砲長自北越与桜陣中来書
五 宮方氏自江戸與北越陣中武敵書
六 六月四日附西澤八十馬自北陣来書
七 全日武敵長岡各陣ゟ来書
八 或人評北越軍説
九 西園寺敵北陣下着布告 徳川氏書添
十 六月四日朝甚左自北越陣中書送各隊ゟ配
十一 北越在陣島津某書簡 六月七日
十二 軍夫来吉義市陣殺申之
十三 全上両角要右ヱ門 全
十四 紀聞 自六月十二日 至日十七日
十五 磯小氏ゟ船浦湊出日誌
十六 北征総督府通中鎗札写
十七 紀聞 自六月十八日 又至全二十一日
十七 諸隊ゟ配 六月二日
十八 坂西廣見寄其全筆書 六月二日

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

(十九)武敏六月十四日北越出雲崎所発返書仝廿一日達 附在陣日記一冊
(二十)北陣死傷姓名
(二一)武敏仝十七日発書廿四日達
(二二)六月廿二日暁賊襲来半蔵金宮軍営報告
(二三)増田将曹俊後文筆寄家厳書 六月十五日
(二四)小山藤九寄故同僚橋詰嘉六書 仝十六日発 廿四日達云
(二五)又 仝廿二日所発
(二六)北越與板在陣代岡富之進寄家翁書 六月廿一日
(二七)仝上書送
(二八)紀聞 六月廿五日 〃廿七日
(二九)武敏六月廿三日出雲崎発書 廿七日達
(三十)雲浦在陣西村中太郎書 六月廿三日
(三一)六月十二日御感章之次第
(三二)六月廿二日半蔵金戦復者容体洪谷申之
(三三)紀聞 起六月廿九日 尽七月七日
(三四)須坂彦兵衛対報告及老臣守昭
(三五)成勘氏峡行ホ之説

(一)以書取奉申上候

去月廿六日夜小諸町并岩村田迄之探索ニ仰付承畏同月廿七日晴出立ニ田中宿迄罷越此処上田様御固場御備向ハ右様ニ而御固番交代之人数別府ニ而凡七拾人程ニ合夫ヨリ小諸町江罷越宿仕候処五月廿日同家并町ニ町人共北越江探索ニ罷越候義之由申押ニ而右等之者何之刀を帯被致候仕此大風夜去月廿五夜同所ニ

一 御陣村仕右之長岡落城之実説承候処右様子ニ小諸様御城内之内ニ穴を掘同夫ハ手口ニ付其外御家中土蔵等泥ニ而目塗等致シ大手前平日之人数其場是迄通御固ロ等ニ

一 切ニ而御家中之面々大身之奥一同傍川向宗寺之家ヲ預ケ候ニ付云
（朱）聞得出奔云々
城下町人之者右ニ而何之事故哉ト押而申候処御城下右ニ向井峠小諸様分八拾人程ニ罷出右様子ニ承候処右之通ニ而右様ニ風聞之候由承候ニ付此

一 小千谷之様子ニ而夫ヨリ岩村田ヘ罷越此村井伊直定様水口城宿迄罷出張之夫ヨリ追

分商ト云ヒ通ヒ云ヒ岩村田清左衛門ト云ヒ者ハ當時ハ通商ノ取扱ヲ
ナス故ノ名ヲ以テ諸藩ノ用事ヲ辨ジ通ヒ
ケル

一 青山下野守殿人數上京ノ内ニ京ト成ノ中仲通ノ
引事ヲ為ス用ノ為ニ通行ヲ停ル沢當ノ仲間ノ人ヲ
ノミ

一 九條殿様近ク内京ヲ経テ内田氏人ヲ以テ
家移ノ事ヲ内談ヲ屋松山ヲ初メ大ニ驚キ
砲發ノ事ヲ將軍家ノ為ニ義ヲ失ハヌ仕
ノ通ヒノ曙ヽ家移ヲ決ス同人ヲ
祝ヲ賜ヲ二十壹ヲ初メ五ヲ以テ
ノ為ニ

一 江戸ニ發ノ事ヲ試ニ同二酉八月將軍家ヲ
家移ノ事ヲ内談ヲ屋松山ヲ初メ大ニ驚キ
砲發ノ事ヲ將軍家ノ為ニ義ヲ失ハヌ仕
ノ通ヒノ曙ヽ家移ヲ決ス同人ヲ
祝ヲ賜ヲ二十壹ヲ初メ五ヲ以テ
ノ為ニ

(二) 改府日記写

五月十一日

一 書翰 一封

一 書翰 十枚

右ハ家茂薨去ノ節ハ速ニ致死ノ事ニ付父ヨリ
ノ書翰ヲ以テ家茂ヲ

(三) 秘説

六月頃日

一 鍔 一郎十本入一箱

右ハ征討ノ事ニ付テ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

小幡參政并陣ヶ内状ニ副状ヲ添ヲ副將ニも又陣長ニ數ゆる戒ニ度ニ
巡見ノ為メ其場ニ某ニ之ヲ代ニ一ノ隊ヲ以テ陣長ヲ計死ニ多代ニ一ノ隊ヲ
ヤ云ヲ以テ一ノ砲兵ヲ陣ニ陣ヲ陣ヲ以テ陣ヲ
移ル後ハ四ノ砲ハ兵動ニ依ル支後答ニ一ノ隊ヲ以テ小出ヲシ
ノ將ニル 楊峠ノ戒ニ水東ノ号令ヲ守ラ
ハ一名ヲ差出ニ七ニ吹ノ陣ノ
ノ後ニ陣ニ次ニ陣ニ後ニ陣ニ
ノ教ヲ以テ陣ノ
ノ後ニ兵到ヲ
ノ後ニ西ヲ後
ニ相就ハ
ノ恩ヲ
ノ為ニ

六月二日晩

一

六月二日吹北敵陣中加藤盃衛尊追ヲ若所報何事ニ
日ニ晩楊ヲ峠ヲ察ニ斜ニ看死ヲルヲ云下日ニ
妙見ノ三仏生ニ降リ吹ニ砂ヲル六ニ小千谷ニ不保ニ
出ニ道ヲ経ニ経ニ移ニ行ニ安富ニ故楊峠ノ
日ニ晩楊ヲ峠ヲ察ニ斜ニ看死ヲルヲ云下日ニ
妙見ノ三仏生ニ降リ吹ニ砂ヲル六ニ小千谷ニ不保ニ
出ニ道ヲ経ニ経ニ移ニ行ニ安富ニ故楊峠ノ

一

材文ニ武経
砲一門ヲ捨
陣ヲ下ニ
釘シ重ニ
カニ所ニ
ルヨシ
峠ヲ
ン

一

六月二日晩

一

六月二日吹北敵陣中加藤盃衛尊追ヲ若所報何事ニ
日ニ晩楊ヲ峠ヲ察ニ斜ニ看死ヲルヲ云下日ニ
妙見ノ三仏生ニ降リ吹ニ砂ヲル六ニ小千谷ニ不保ニ
出ニ道ヲ経ニ経ニ移ニ行ニ安富ニ故楊峠ノ

一

材文ニ武経
砲一門ヲ捨
陣ヲ下ニ
釘シ重ニ
カニ所ニ
ルヨシ
峠ヲ
ン

一

六月二日晩

一

六月二日吹北敵陣中加藤盃衛尊追ヲ若所報何事ニ
日ニ晩楊ヲ峠ヲ察ニ斜ニ看死ヲルヲ云下日ニ
妙見ノ三仏生ニ降リ吹ニ砂ヲル六ニ小千谷ニ不保ニ
出ニ道ヲ経ニ経ニ移ニ行ニ安富ニ故楊峠ノ

一

材文ニ武経
砲一門ヲ捨
陣ヲ下ニ
釘シ重ニ
カニ所ニ
ルヨシ
峠ヲ
ン

一

六月二日晩

一

六月二日吹北敵陣中加藤盃衛尊追ヲ若所報何事ニ
日ニ晩楊ヲ峠ヲ察ニ斜ニ看死ヲルヲ云下日ニ
妙見ノ三仏生ニ降リ吹ニ砂ヲル六ニ小千谷ニ不保ニ
出ニ道ヲ経ニ経ニ移ニ行ニ安富ニ故楊峠ノ

一

材文ニ武経
砲一門ヲ捨
陣ヲ下ニ
釘シ重ニ
カニ所ニ
ルヨシ
峠ヲ
ン

一

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

従日暗而有之ゟ云々事ゟ与久田ゟ云々迄ハ前ニ有之候ニ付略ス

一 同十三日松崎ゟ致士族之長十四人今ゟ七人ニ而改名ニ付之届ニ来ル

一 藩ノ軍監ゟ農民仁礼氏ゟ云々ニ付某ゟ云々ノ義ニ付届ニ来ル

一 藩ゟ説軍ハ援兵ニ若ゟ援兵ニ而ハ事好候ハヽ速ニ帰ゟ可申旨ニ付帰ル

一 ゟ谷ノ辺ニ松代往ス人ニ逢ヒ援兵ニ而ハヤキ人ニ逢ヒ説ニ松代ゟ死傷千余ハ殺ゟ人ハ無之候ニ付帰ル

松代ゟ一隊兵ゟ云々

一 ゟ西ゟ追ニ死傷迫ニ死傷ゟ云々ニ付ロ上ゟ帰ル

一 見附ゟ東ニ今度迫ゟ千ニ戦ニ行之ニ付ニ今ニ不逃ル

松代ゟ一隊兵ゟ云々ニ付ロ上ゟ帰ル

一 ゟ西ゟ迫ニ不死傷迫ニ死傷ゟ云々ニ付ロ上ゟ帰ル

一 見附ゟ東ニ今度迫ゟ千ニ戦ニ行之ニ付ニ今ニ不逃ル

松代行迫ゟ此ニ今及十ニ隊ゟ千押ニ兵ゟ少ニ而ニ戦ニ付帰ル

長の後ゟ救ニ今及二十ニ隊ゟ大砲ニ而井ニ引揚ル工人ゟ駆ゟ而捍衛ゟ当藩ニ而ハ長ニ致ニ兵隊ニ而ニ戦ニ付帰ル

一 藩長ニ致ニ兵隊ニ而ニ戦ニ付帰ル

一 下ゟ松ニ致ニ兵隊ニ而ニ戦ニ付帰ル

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

一 長谷川堅宇濕疫不能獨ら夏侯ら行不得ら之の海寇乱ら疾モノアラ

一 あ四ら来報ら我ら一度ら不吟るるらいものいの薬ヲ ら益の堅宇ら独ラ迎

西ら行ら一ら行ヲルら

一 在陣中ノ粮食兵器運送ら傭船皆 朝廷ら

口宇佐ら長岡休ら遣ラ告の全七十万石ラ

一 ラ稲辺ら火ら兵大ら、ラら子失大ラトセ云

一 第仁移峠ヲラる時屋ラ天幕(テント)営ノ四ラ

竹モラ使ら佐ラ ラ為攻ラら時十ら張号賊ら奪去号救記誌ラ

賊ラ我ら章下一ノ云将ヲ攻ラ ラ為ラ

一 今ラ所辺ら二所運送銃弾(ヲ書)十三万発

而メ弾丸ラ佐ラ下ラ使ラ多ら

行ヤラ ラ為ラ他ノ為ルラ以 兵ヲ宮ヲ

ララ云一ノ

六月七日

詔言

今日ヲ二ラ告ラの詔ヲ一昨代ノ帝ら基ら一切ヲ事ラ

氏ラ之ラ行ラ宇佐ら西本願寺ヲら命ラ四條

ヲ事ら之ヲ王室衰微ら時ら出仕ラ ラ為ラ

しめララ之ヲ王室ノ本ヲラ之ヲ為一人ラ

修ラ ラ為ラ

今ラ所ら四條教ラ下ラ ラ為ラ

ラ為ラ

一 ラ為ラ

行ヤラ ラ為ラ大争端ヲ

ララ之ラ是ラ行佐ラ一ら攻

攻入ラ之ラ一人ラ ラ為ラ

行ヤラ ラ為ラ

詔ラ庶ラ建ラ ラ為ラ事ヲ ラ為ラ告出ヤラ ラ為ラ

一 今ラ出ラ参与士ラ人 並ラ高ラ ラ為ラ代ラ

(下ラ之ラ張ラ 侯ノ

事ラ多ラ之ラ ララ

一

宮内ラ為ラ 小宮山内ラ為ラ

木村掌ラ 岩倉 淀 ラ為ラ

行ラ又ラ

玉川 渡

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

一 長谷川堅宇濃疫ニ罹リ独リ高原ニ行キ温
一 あり其事報ス我ニ一度モ不来ルヲ以テ
思ヒ行キ一ニ行ケルナリ
一 在陣中ノ粮食兵器運送ノ賞銀皆 報ズル賜ハルヨウ望ミマス
一 口宇佐、長岡等ノ遺族ノ為ニ叶万両ヲ下
与相成ル火ハ兵火ニヤラレ失火ナリトモ云
一 第仁村峠ヲ守ル時屯所ヘ天幕(テント)ヲ張リ
ソレヲ使ヒ候ヲ西郷ヨリ咎ムル十ノ張ヲ賊ニ
賊ヨリ我ヘ奪ヒ之ヲ咎ル者ナシ
一 今ノ所ニテハ運送(ママ)ニ十三万(サンビ)両ヲ
要スルト他ノ事ニ及ボス事不
ヲ云ヘリ

一 六月六日会津ノ為ニ警衛ニ参ル途中ニ
仕ヘ申ス事ヲ百姓ヨリ差ヲ受ケ候ヲ是ハ
ニ口七日ニ去月末ヨリ諸藩ヨリ差ヲ受
ヲ取ヤセヌ ヲヲノ事
一 北越ノ兵勢ニ乗ジ二口ヲ落ス勢ヒ大ニ
ヲ逐ヒ敵ヲ下田ヨリ浮ノ泥ニ溺レ参死シ
ヲヲシフヲ事ヲ大実ニ一ニ称ス但シ
ヲ心ヲヲ

一 今ノ出兵ノ士十二人並ニ高ヲ代ン
下ニ七ヲ名ノ名ヲヲ

宮内馬之助
小宮山甲子
木村常力
行岡文作
岩沢三十郎
玉川清

一 六月八日北陣ノ傷者三人還ル則銃手 生駒茅吉 夫掌 佐野善吾

一 長岡城ヲ奪ヒシ日ヨリ毎日白砲ヲ以テ加州ノ士四人砲ヲ以テ砲撃セラル

一 城下ハ已ニ数人後五人ノ柏火ヲ執リ此ノ砲撃ヲ受ケ残ル所ノ家ヲモ 残ル所ナク焼セルニ依テ傷者ヲ出サズ

軍監	河崎源吉	
仮軍監	山崎辰郎	
会津	西郷頼母	近親四人
	神保内蔵助	七谷川勝治
	池村猪三郎	白川宣馬
	会津三家 会津藩家老	杉本俊（トシ）大夫

一 井上甲之進

一 金児砲長従与板陣中来書 仮辰六月朔ノ

其後ハ沙汰モ無之打過候ヘ共 当月ニ入候テ梅雨ニ而度々大水不順ニ季ノ穀物悪敷 不日ニ新穀ニ相成候ヘハ又敵兵共ヲ発シ可申哉ニ付 当所ニ在ル分病兵ヲ後ニ為致 城ヲ堅固ニ守リ居候ヘハ 敵ハ是議論ニ上候テ 早ク戦争ヲ止メ 引取可申哉ニ付 当所ニ先ニ兵ヲ引 事ヲ穏ニ両ホウ迄ニ又戦ヲ仕掛ケ 引取候故 両ホウ共ニ今ニ於テ 当所ヘ屋蒲松ヲ有 庵ヲ固ク致シ 二十日頃迄ニ 長岡近辺ヲ払ヒ 敵ヲ追ヒ 戦争ヲ止メ 当所ヲ速ニ近来ニ至ル迄ヲ実見 未双方戦争ヲ不引故ヲ事ヲ引揚ル上ハ 当所ヘ御出張ナボレオン砲表ヲ固ク御守護下サル迄ニ 御送致下サル迄ニ

御生下不審書あるて予大あ心考ニ大ニ
堂一庵ニ御用ニ出おニ是近ニ肥後沈部ニ考表ニ六年堂下打近ニ
呉ニ孫ニ生先御用ニ参ニ全ク私ニ御用ニ八則君ニ御用ニ
ニ諸藩ニ参ニ木ニ相成箱ニ御
り也ニ右ニ条ニ沙汰ニ至ニ蘭ニ作者ニ
大天狗ニ異ニ称ニ相存実狗ニ手方ニ
ニ新多ニ間違ニ不容易ニ
ニ松ニ七張ニ銀ニ
ニ敵ニ狗長戦ニ
ニ岬ニ寄ニ墓場ニ築ニ地

形ニ承ニ不ニ容ニ等ニ終ニ
ニ計策ニ用ニ得ニ又ニ
ニ七ニ変ニ
ニ

㊷宮方代與武敏當　戊辰五月廿四日江戸一ツ家地

御暑ニ候ニ御在陣中御勇勝ニ重畳ニ御在所表ニ
私ニ何ニ不和ニ其後ニ
ニ御用ニ
此度横須ニ
二十四日加農ニ功ニ筒七八夕日ニ

突ト云フ三十ノ士敢テ敵ホメ四大十、安ラテアメリカ人ハールヲ殺明シテ秘物
本国ヲ外他方ヘ為作ニ出サヽル為ノ如極用ニテ多入近ヲ阻国ヲ止制スル為ノ
試益松戦戦ヲ打送ラントテ突ト右宇ヶ山ヲ美
是ヲ国秘物先手長州ニテ留入四十八坂上ヶ右ヲ三年計打下ヶ其ニテ
後ヲ追ヲ得ントテ事誠ニ地必用ヲ安ヲ存ノ打角ヲ厳ヲ事ト
今ノ牧野山戦南氏当ヲ存安ヲヲノ十一位ヲ追ヲ以上

十月十一日

武敏記

（六）六月四日附雲津八十馬北戦ヲヲ多箱

昨二日見付ニ出張ノ人数六、第八番吉村組ヲ見附先松澤ヲヤ外ヲ戦争ヲ始リ
ヒ、ヲ落長ヲ一同ヲ不意ヲ出テ接戦初ヨリ賊兵五十人程三家ヲ打取ノ後
ヒの原需家ヲ三人落長ヲ武人河原理外計取討人 大将ヲ追手ヲ入
ヲ神ヲ人右三人村松上杉会津ヲ近須ヲ大勝ヲ面ヲ候ヒノ報告ヲ別
ヒ其上ヲ田尾州加州富山ヲ兵ハ用ヲ之ヲ不ヲ落長ヲ当家計ヲ実体
一 二日興板ヘ敵サヽ退北ヲ引ヒ落長七番牧野和向ヘ全兵ヲ其外大岡系
諸家ヲヒ和向ヲ兵ヲ六七日ヨリ今日迄砲聲不和止強ヘ昨夜烈ヘヒヲ報ヲ
人数
一 今朝富和向ノ加州尾州ヲ田上田落長二日四ヲ頃ヨリ長門先鋒ヲ四家高稜ヲ
ヲ田物崩ヲヒ故尾加共ヘ崩ヲヒ上田敵ヘヒヘヒヲ長ヲ高稜ヲヲ故長兵一

小隊の七人殊に引揚ぐる処に敵兵追々に進み
み敵軍と合戦先ず前進下る所より田島人数
手死くて武ふる田尾川等設ありて敵
設ふ人数引揚追々跡より迫きみ敵
一隊長て右内手村ふ私共し初ハ右内ふ在
み人数共合戦始りの日が仙台ふ引返ふ
話あて感心仕ト

六月四日

(七) 四日戦争略

西澤八十蔵

(八)

○或人寄稿ふ北越軍ハ評曰官村ハ鎮軍也而将軍独り諸藩ヲ
職ハ私ふ行ハ千蔭ハ為メ我保住ふ由て守隊長
妙き自ら旗往往将ふ責ふ十蔭ハ部ふ近ふ
一度ハ知合ハ入テ後ヶ十数日夜ハ戦闘ハ暗ふ
ことふ我ふ兵士ヲ人ふ砂取傷ふ
七ハテ人の使役ふ仕ハ仮ヶ軍人ふ
共ふ由ふ一手ふ
ふ様の事ふ
西国ふ敵當将軍ふ
(九) 浮名

西園寺殿青下
参都合延也云

別紙之通青天九ヶ御所ゟ青ヶ御布告書ヲ以下知ヲ
御家ゟ兵ヲ徴シ江戸ヲ経テ会津ヲ
先鋒ヲ命ゼラレ隊ヲ追々進撃ヲ為ス筈
今番更ノ柚 稗方ヲ 御供ス
辰十月

越後ヲ賊徒ヲ掃攘ヲ為ス言上有之候ニ付テハ
今般徴兵ヲ挙ケ隨従 當口ヨリ進発仰付ラレ候事
榮 認命ヲ奉ジ軍容ヲ備ヘ今般ノ挙ヲ也
辰十月

○仙台侯ヨリ上京在ラセラル事ヲ追還ヲ
命ゼラレシヨリ奥羽ノ諸侯ヲ説諭シ
奉勅ノ旨ヲ貫徹有ラン事ヲ期シ
辰十月

西園寺殿青三位中將
公望 ㊞

天皇御幼冲ニ
御座ス
皇国ノ
為ニ
尽力
セヨ

十六日四日附土明甚左衛門ヨリ道橋方ヲ附ケ
一 此節戦争ヲ見附赤坂ヲ方大難戦ヲ昨夕刻ヨリ薩長加賀上田等ヲ一先長岡ヲ引揚ケ
旗下ハ一里ヲ利進ヲ為ニ去ル廿日赤坂ヲ戦ヲ山越ヲ組長州勢ヲ一同ヲ敵ヲ攻ヲ
賊即死二十人生捕十人ヲ余ヲ右ヲ赤坂ヲ敗乱ヲ
場ヲ奪ヒ賊八十ヲ余ヲ其場ヲ有ヲ何ヲ難攻ヲ
長岡ヲ後石内野ヲ陣
隊長 三番四番大銃
見附村
八番小隊 吹市川組
赤坂
関原
稲荷峠ヲ即組 是ヨリ
石峠
狐川賢ヲ即組
出雲崎
金児友ヲ即組

与板　　新潟七手組　　牧野大蔵の組

右之通ニ而故仰ニ而ハ人数ニ而ハ無之候得共出
張ニ而當家之御為ニ一昨二日山越ニ而敵ニ向
之上精々大ニ働ニ而當方ニ而ハ山越ニ而ハ當方
即死組之内ニ而ハ人ニ而ハ無之候得共一ト通ニ而ハ
兵城攻ニ而ハ當方ニ而ハ雪積ニ而ハ敵ニ向
之勝利ニ而ハ無之候得共一昨二日山越ニ而ハ當方ニ而ハ雪積ニ而ハ敵ニ向
之勝利ニ而ハ無之候得共一昨二日山越ニ而ハ當方ニ而ハ雪積ニ而ハ敵ニ向

追而一ト通上ル次上

五月四日

(十)　北越在陣當隊六人軍隊
軍士　多写　六月七日

五月　先月九日夕領ル　半紙　藏金　今村生之時七ツ時長岡城下ニ在ル如ク多人数ニ
五月晦日　通ル之ニ而出発ニ而ハ夜明ニ而ハ時長岡生之晦日四ツ頃ニ而ハ
六月朔日　四条ニ而ハ一ト通上ル次上ニ而ハ出発仕八百余ニ而ハ賊徒ニ而ハ
州ニ而ハ隊無之候ニ而ハ早速ニ而ハ来ル而ハ会時ニ而ハ七十人ニ而ハ
来時ニ而ハ是迄ニ而ハ大隊ニ而ハ長州ニ而ハ負ニ而ハ人當ニ而ハ死ニ而ハ人ニ而ハ賊兵生
捕四人即死四十七人ニ而ハ数不知ト」　越州ニ而ハ長岡ニ而ハ
尾州ニ而ハ敵軍ニ而ハ戒敵大ニ而ハ一ツ宛ニ而ハ在陣ニ而ハ
吉村隊八番ニ而ハ追退今町ニ而ハ方ニ而ハ夜大会戦時ニ而ハ
ニ而ハ方ニ而ハ多ニ而ハ配薩加州ニ而ハ代上田ニ而ハ当山田之口ニ而ハ人数陣所近引揚
支ニ而ハ當家基ニ而ハ長州ニ而ハ代ニ而ハ多ニ而ハ持　其後長州ニ而ハ
ニ而ハ大垣ニ而ハ交代今日長州ニ而ハ

六月朔日急報之
死人　旗持　東稽三村
義市
多負　中村勝右衛門
檀田村
忠蔵

後ニ而ハ九ツ過ニ而ハ三ツ半時ニ而ハ後肩ヨリ火ヲ
打通ル長九寸余
ヨリいろう迄ニ而ハ
ニ而ハ弾ニ而ハ玉ニ而ハ
ニ而ハ玉ニ而ハ

国立国会図書館　　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

名文化 先月廿九日ヨリ今日迄九昼夜不断
今日討手人集ル：お成時ヲ待ツ
お成ヶ乗玉ヒシヲ外別格ノ
六月七日夜記
四月五日ヨリ待ツ我地ニ始テ生擒
知ル後ニテ○ソモソモ長岡安道
始ヨリ今日迄砲戦不止
成ル

（三）北越在陣 兵糧方 両角要左エ門自記

長岡蔓隆矢ヶ名而

稲垣平十郎 中澤惇蔵

六月七日 間

あ田圭 中村誠蔵

陶山善蔵 あ田剛蔵 根岸四郎左エ門 神戸源吾

あ田信吉 小坂部良吉

あ部小次郎 今泉友三郎

あ部剛蔵 小村市蔵 山田善之助

右之通昔家之時殉ノ昔家格楽寺ニ番人附置ル外ニモ追々存ノ隠居ハ士分ニ至ル迄悉ク昔家ニ帰リ昔家ニ帰リ婦女ハ九月九日落城ノ節近村ヘ立去リ其自害ノ者モ多分ノ事ニテ外昔家ノ人ハ南ノ方ヘ逃去リ其地ニ有テ右地ニ老若ノ婦女数多殺害ノ由又ハ山ヲ越ノ時ニ人数ニ外諸藩ノ手ニ掛リ死ノ者モ有之昔家格ニ成ハ勿論町方ニテモ昔家中九ト通リ焼失ニ及ヒ右故昔家ハ諸藩ヘ入込ニ成ル不自由ノ事ニテ困入ノ儀ニ付其節ノ事

半蔵金 堀川一隊 大鏡一刀

浦瀬村　御取次の事士　吉村一小隊　大銃一門

桂澤村　小幡勘兵衛士　山敦一小隊

与板　家老格の事士　牧野一小隊　板持と小隊　大筒二門

出雲崎　**新潟組**惣事士　会津二小隊

宮内村　給黒傳兵衛　病気の時は大弁侯

石内村　御取次　但し村長宮内迄行程五町程

右之通諸士人数ニて当村ヲ出張之節ハ桂澤堀講会所ニて敵ニ向ひ
一ト当敵功者下強ニ堀溝ヲ山敦ニ隊御取次ニ隊ニて敵ニ向ひ
死生相分ル人ヲ取候迄数度ノ戦毎ニ勝利ヲ得候ハヽ敵ハ
ヲノヽ　ニ引ケ

蛇川ヲ彼此ト固術ヲ今次一変ヲ以テ敵ヲ殺ヲ計ル事ヲ

上　松山村
　　惣右衛門
　　十九才

右之通諸藩兵ヲ弾ヲ乍ラ村ヲ運ヲ入ル事ヲ度々ヲ程ヲ再ヲ与板藩ヲ敵ヲ
帝ヲ軍ヲ在右運ヲ送ヲ等ヲ当ヲ村ヲ出張ヲ節ハ一ト当ヲ陣ヲ与板ヲ
与ヲ路山ヲ辺ヲ御陣ヲ所ヲ列ヲ陣ヲ列ヲ敵ヲ
ヲ候ヲ銃丸ヲ発ヲ運ヲ送ヲ候ヲ間ヲ何ヲ共ヲ手ヲ負ヲ支ヲ相成ヲ
陣ノ場近ヲ至ヲ運ヲ送ヲ仕ル外人ヲ二同小銃ヲ組ヲ
小途中一同等シク相支ヘ候ノ義ニ御ヲ座ヲ候ヘ共ヲ一同手敵ヲ
負中ヲ腰ヲ方ヘ手ヲ疵ヲ出テ其場ニテ即死仕ル義ニ御ヲ座ヲ候ヲ一同手敵ヲ
与板ヲ連帰ヲ候ヲ節ハ早ヲ速右ヲ城下禅宗徳昌寺ヘ連ヲ
同村ヲ右ヲ負ヲ傷ヲ人ヲ宗旨
相ヲ尋ヲ候ヲ処ヲ何ヲ共ヲ相ヲ知ヲ不ヲ申ヲ候ヲ

仕當人家持之品打故ク受文箕ヲモサヽ賊罪ニ而火葬仕遺骨持帰り度旨出張ノ目
付ヘ相願候處當節柄烟相立候事不宜義ニ付何レ右之場所ニ而埋葬之義可申達
切支宅ニ持参仕度旨云々

六月二日　　　多野助左衛門

六月朔日男死　　東福寺村　義二郎　六十二才

右之者山越村谷部在ニ而松澤村近罷越居候處賊兵戦争ニ相成候趣相聞候間為見物一
同参候處鉄炮玉ニ中リ即死仕候所同人親同所ニ罷出居見付候ニ付大
葬之義罷越度旨云々

六月　　　多野助左衛門

紀聞

五月廿六日松澤村黒澤大面三ヶ所ノ戦争ニ廿六日ヨリ廿七日会賊ノ戦ハ駒之込追懸ケ攻テ松沢
ヘ引揚ケ夫ヨリ五ヶ所戦ニ而見合引返シ当支一隊ハ加茂郷ニ而相引揚候処其以来廿八日
三ヶ所同時ニ戦争ニ相成候賊兵ニ而討取候事多ニ付会賊唯一ヶ所辛ク人数ニ而應援
ナ致兵ル也延命寺ハ人ヲ以テ出張シテ此所ニテ死ス一ノ下知シテ追懸銃撃シテ発
銃セシメ又一隊ヲ延之後ヲ擁シ旗ヲ振リ相立テ励シ進ミシカハ今ハ兇賊ノ為ニ所敗
小出旗ヲ振テ下知シテ旗本ヲ隊列ヲ整ヘ進ミ出ントスル所ヘ近ク攻寄セ黒澤
松久ヤ一人シテ会賊ヲ打取リ打倒シ戦候ニ付速ニ引揚ケ出戦捷此近辺ニテ
陣ヲ取ルト云此所ニ追ルト云ハ茶屋ヨリト限リ候ト云々ヘシ
一　六月二日又黒沢峠ニ賊来リ二手ニ分レ其中ノ一手ヲ伏セ一手ヲ挟撃ノ徒
ト云ヘ兄田気山越ハ砲所ト小先ニ手寄セ市谷ニ構ヘ銃ヲ見テ真一

六月十三

文宮二山ヲ登リ若者勢ハ其表ヲ[illegible]見テ揚報スル事二ノ感トモ同志ニ
[illegible]我ガ[illegible]ヲ催シ勝テ十七人ヲ打殺シテ上山ノ賊一賊捕ヘニシテ縛セ
ニメレトスルニ私ヲ何故ニ捕ヘヤワシニ我ヤ兵ハ[illegible]ヲ捕ラレヨト云何ゾ[illegible]トモ[illegible]
[illegible]故其侵ヲ被リ四十人ヲ殺シ[illegible]兵ヲ[illegible]人ヲ拔テ引揚
若者勢ニ[illegible]侵ヲ被リ[illegible]人ハ[illegible]ト云ヘ由テ其[illegible]ヲ責メ[illegible]
捕ヘ[illegible]村[illegible]之[illegible]トシ[illegible]王[illegible]一賊[illegible]テ遂ニ捕
[illegible]山[illegible]若[illegible]云[illegible]結構[illegible]サシ[illegible]ノ[illegible]一
[illegible]山賊[illegible]

一 藤渡氏北陣ニ六月八日ヨリ十二日頃ル（何日ニ彼ハ往ケルや）其説話ニ下与枝ニ[illegible]テ[illegible]賊砲
臺ヲ築キ[illegible]ヲ迫ルトス藤長攻アリテ[illegible]得我ト[illegible]ニ托シ休息セシト云
時ニ牧大[illegible]金忠[illegible]ニ任セラレハ引揚シト云[illegible]

不肖[illegible]一手ヘ引揚其夜終夜攻撃シテ[illegible]賊ヲ追[illegible]
二[illegible]二人アリシト云賊ハ引揚テ再ヒ[illegible]利[illegible]我[illegible]丸雨
[illegible]砲臺ヲ築ク其側ノ[illegible]ノ[illegible]賊堅
[illegible]我[illegible]ノ[illegible]士[illegible]ト[illegible]
[illegible]一賊ノ[illegible]故[illegible]
砲臺[illegible]ノ側ニ[illegible]砲[illegible]堅固[illegible]我
[illegible]一[illegible]枚
大一[illegible]我士[illegible]ノ[illegible]（何日ノ事ヤ）

一 官軍二十ケ所[illegible]賊[illegible]官軍ノ[illegible]攻テ日々[illegible]迫合
枚[illegible]賊我[illegible]ノ[illegible]故[illegible]
の[illegible]不[illegible]云[illegible]勢[illegible]故一[illegible]

かねまりし後軍を先々田伝ふ類へ申云 我し後軍之来れ々待り情了ト云
今攻伐軍ノ勢弱ニテ寺御軍兵トナラリ猥ニ兵ヲ分テ以十攻一ハ孫子ノ所誡之画
一 何人モ亦兵ヲ分テ俵レノ害ヲ論之其弱郭ヲ撰ミ孤行全軍ノ力ヲ以テ攻之ハ
必敗ルヘシトト云ヘリ今賊軍ヲ分テ我ヲ襲ヘトモ我ニ分軍急之是令ヲ賊之破キ
致所人者や若官軍て全力ヲ以テ賊ノ必敗之地得人所謂敵役之貴重郭ヲ攻ハ
賊集リ拒ニ一の不有逆賊若集リ不守ハ其根ヲ絶テ是非モニ日枯之各路ノ兵源
一 然ルニ今我謀ヲ先サリ統括之将帥無ク将術ノ大策略無ク徒ニ力ヲ争フ
数月在ハヽ終ニ又寡ノ勢力竭テ潰ト共害一の論ヲ亦一の見也
一 六月四日藤[illegible]九日条ニ谷[illegible]八日ニ山形賊ハ遁ハ
銃を二人ら争ヘ 作役ニ出ヲ云ト云 後我ニ賊ヲ斫リ自己モ左腕ニ疵ヲ受七寺 石田ニ所ヲ療ス
一 前日[illegible]貫ヲ不得ト云 此日寄賊銃ヲ放ヘ山ヲ越ヘ二岩ニ待伏シテ数ヘナリ
刀ヲ以ヘ、数千石[illegible]ト云

威ホ未儀 宮徒ニ康ノ 人撰ま歟 くト世得之 由之
一 岩崎参政盛助氏九日此所ヲ発し 松嶺ニ至リ[illegible]暁 船[illegible]何ノ役 役ヘ入リ
一 十三日 不多日出日時盛島田所行ノ命ヲ得テト云 彼寿承尹ノ往ハ當ル十九一し
同日高四時ヲ着語ニ八日早朝出立 第日七時[illegible]由在一の追及ナシ一九不
及英川ノ至ルハ而通行ヲ命シ[illegible]一切不得追ノ前ハ得文右の由ヲ廿弟通行し以
ニテ淀雪ヲ書シ不宜トシ云通行ヲ留め[illegible]云此寄モ宮軍
[illegible]ニ通ハ何[illegible]此所ニ及ノ我ヲ[illegible]通ラシトテ云テ
岩鼓[illegible]遂ニ通行を許し[illegible]不法是ノ行ヲ比類ナク詳
宮中ニ行ヲ[illegible]ヲ神官ハ我ガ[illegible]真ハ其ノ[illegible]
[illegible]一宿し 廿日川ヲ越し間道ヨリ[illegible]人ニ論ス[illegible]
[illegible] 阿蘇[illegible] 中村[illegible]
千峰通行し[illegible]一宿
[illegible]

国立国会図書館 タイトル『鬼報録並外録』 請求記号 836-3
ガラス使用

翌日茶屋町ノ冥加ハ先陣乃ニ居ル前田殿家中ハ富山勢ニ落ナル由シ前田殿
士ル御方ヲ以テ陣取ルニ付テハ直行和歌紀之余殿態行夕ル由ニテ御所今町ニモ開
ヲ有之トテ上富山勢中ニハ今町安芸守ヲ守リテ旅行ナリシ
一 加賀本陣ニテ屋敷旅亭ナリシニ西三ヶ所西園寺殿本陣トナリ森氏ハ向
修理ニ屋敷同宿ニアリシナリ
一 横町横山主計日町一条加州ノ陣ニテ長往寺其寺院之十一日ニ鉛堂ニ戴ル
又ハ卑之ヲ居ル三人ヲ留メ置ニ又ハ人卑之十人許卑人タルモ見ん
一 寺町一条長下陣寺院寺焼ケルニハ寺者供ヘ重捨人モ居ルナリ
一 ろ田家の寺院ハ来迎寺ニ
一 ろ田人ハ松代を発シ談候ヘテ甚シク荒弁ル人の鎖ヲ入モ所押入リタルハ為ト
此方ノ云ヲ聞キテ語松代ノ役人一二ヘルニ返答モ無之ニテ留ヲ置クモアルろ田
号令のヲ申ス一二ヘル者ト云ハ其日御一方勢ニ軍付一ケ所ニアリシ由ナリ
ニ付テ延セラレシトモ陣ニ松代ハ陣長ハ頭家何事モ無之ヲ由ト
御前ニ有ル室ヲ軽視スルヲ嫌ヒシモ共ニ其日直留ヨリ所長モ無
ト云ヘリ其ハ存知云ナリ
一 大勢壮ナル故之ヲ返ス様ナルヲ送ル事ニ付テ唯行ヘ共人ニ寄ル
来ルトモ一宿モ無ク露顕セハ入寺ニテ行ケ候ヘ共近辺モ無之ニ
ニ入寄リ帰リテ売買ヲ行フ人々在所モ之ヘテハ留リナルヘキ
モ利ナキ事ニ候ヘ共鎮町ニ手返リ思モ候ヘ共ニ付テ為ニ留之
一 冥川ヨリ是レハ又松代ヨリ談候シ去ル藩中ヨリ小荷物ヲ為ト云所ヘ割リ入テ
ヨリ為シ去ル名分ノ印章ノ免許松代ハ国ヲ出サルル事無之人々ニテ
従ヘテ退去スルニ付テハ大ニ留ル破ハ成其日家老宗ノ役目モ有之
国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

一 今日の三卿追、戦地ヨリ進陣ニて號令二の者の列實ニ於テ新衛と一の成人
家ヲ立てて守ラく陣所の始ヨリ之ヲ為ス事ハ
たゞ終ノ勢七郎ニ為ルノミ○是別ニ
一 西丸久ゝゆ(男子ノ名)手ニ死セんヨリ行ヲ仰付ラるゝ事ハ
ふでノ行徳ニしるすニ
一 今日ハ一ノ弥宗七郎ニ逢えり此事ハ仰付ラレ在ラや
一 陣中ニ青ヨリ出ル戦士銃等ヲ持ニ出ル事ハ二方ニ三男ハ二方ニて与ニ出ルヨリ
一 西丸久ゝゆ(男子ノ名)手ニ死セんヨリ行ヲ仰付ラるゝ事ハ

一 今日の三卿追、戦地ヨリ進陣ニて號令二の者の列實ニ於テ新衛と一の成人
家ヲ立てて守ラく陣所の始ヨリ之ヲ為ス事ハ
たゞ終ノ勢七郎ニ為ルノミ○是別ニ
一 今日ハ青井ニ逢ニ行ノ事ハ仰付ラレ在ラや
一 今日ハ戦死ノ者二十一人ニて七陣中ハ日ニ到ル迄ニ
一 今日ハ戦死ノ者二十一人ニて七陣中ハ日ニ到ル迄ニ
一 十二日ハ大垣藩二十人北下シ居ル藩ニ人事止ヲ申出ル藩ハ岩永氏ニ達ヲ
てヲ守ラしめ守人後ヨリ守ルヲ以テ守ハ之ヲ為ス
一 藤浅氏下ヲ報ニ新手ニ悦ヲ集ヲ行ヲ守ヲ以テ再ヒ
記ス 昨夜本陣ニ入ヲ為ス時ハ戦ニ村人家ニ移ヲ守ル為ス

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

拿破崙千万条彼一条我了十条ノ兵ヲ以テ相ヒ戦ヒ
争奪ヲ為ス事百度ニ及ヒ追テ追ヲ繰仆シ討戦陣ヲ
陥ヲ計リ地ヲ辟ノ甘苦ヲ通セ程ノ距離ヲ進ミ野営堡ノ築ンニス戦ヒ之ヲ攻
ル為ニ頻ニ拿破ノ手ヲ以テ防ノ手ヲ知リ彼ノ術ヲ以テ一防シ不意ヲ襲ヒ逐ヲ
云ハ法ヲ設ケシ者ノ等ニ強勝ヲ決シ名ヲ得ル而已ニ非ス
此外実ニ名ヲ遺ス之ヲ智将ト云ヒ勇将ト云ヒ
ふ終ナ仏国ヲ脱セサレハ又事ヲ病院ニ戦ヒ憐ヲ捜シ名ヲ求ムル
ヲ知ラス話ニ聞ク処ニ拠レハ大一本ノ六カ七ト云
中村順大尉ノ名ヲ更ニ数ニ強ニ加ヘ大ヲ紹介ス
云ハ法ヲ設ケシ者ノ等ニ強勝ヲ決シ名ヲ得ル而已ニ非ス
此外実ニ名ヲ遺ス之ヲ智将ト云ヒ勇将ト云ヒ
ふ終ナ仏国ヲ脱セサレハ又事ヲ病院ニ戦ヒ憐ヲ捜シ名ヲ求ムル
ヲ知ラス話ニ聞ク処ニ拠レハ大一本ノ六カ七ト云
中村順大尉ノ名ヲ更ニ数ニ強ニ加ヘ大ヲ紹介ス

ノ病院傍ニ止リ見テ而ヲ云故ニ事ヲ
話ヲ聞テ感ニ堪ヘス
ニ遇ヒ事ヲ
銃ヲ放テ初テ
ガラヲ仰テ
ノ写ニ非ス又一ノ戦仏堂ノ為ニ気ヲ拓ク
テ堂ノ傍ヲ井ヲ掘ル凡ノ窓気ニ
ナシ又一夜山ヲ越ル
死ヲ心ニ
国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

候て十一町積リ二テ拜タル、鬼篇職テニて夜毎ニ寄るし今ハ孫七人も某
ヲ先年不論シ無事ニ一発ヨリ打拘也ラヌ毎日一発ヅヽ打モ厭ハ無
シ此年打タル之ト云フトソ ロライフル砲傍ヲ打人ハ国ニ在テ十丁 四町十五丁ノ經距離ヽ
アルヘシ 撰峡砲博二十寸白砲以ノ角モ立や ミハ二十寸白砲十五寸經鬼砲ホク用ハ弾大ニメ長サノ得

一 山新ノ子息鬼ハ八日ニ至ル四ヶ所ニ入介候ヘ出入ヲ見テ只一人四伴ヲ何ヶ所ニ一士二逸
是ヲ作候テ八ヘシ三一人ノ位置ハ官山賊モ至ル四士明白ニ折テ至ル四ト云フ鬼二人三
二テ官吏トノ鬼子親ノ二人ニテ四士一人ヲ切タリ 倒シタトカ逃タトカ 真ニ此方ノ三人モ搭合混
斬中ニ親ノ一人ノ小腎ヲ斬リ山賊ハ腕ヲ下ラル親二人テ逃テ至ル四二名モ山賊ヲ捕
テ逃ケタルテ山賊ハ人ヲ至ル親ニ人ヲ追テ討取タリトモ云フトテ不許備
其旅宿ニ舟上ケル千石ニ免ル来ル者ニ認メ阿ニ所蒙致候ヤ此頃平角周旋
シテ今般業トスル元ハ一人ハ此計ノ旅ニ参リ賊参え子不肯ナリ 〇世傳ニ此人近眼近

今孫ハ三河ノ人ニシテ不断得之言子銃戦 於今士望遠鏡ヲ不放ハ賊陣
ヲ望見シ不能視ニ世間眼十歩ニシテ不見人ニテ任ヽ不當ハ今御旦軽卒出張遷退又
白衣ノ人ナリ今何人長陣中ニハ今在 歸スルニ当テ鬼ニ盗マシ歩三ヲ取テ大ニ病院ヘ一ノ
廷是ホトハ法ト不敵ハ軍法不立ナリ

一 本陣ニ望遠鏡二十個一個價ニ二十金ニ至ル収タリ今ハ價騰テ新参の此
一個二テ壹ノ萬一再ニ至ル十金ノ利アリト桂泉云タルナリ

一 何回ノワカヤ岩下章五郎介候ヘ出テ馬ヲ失タリ一説ハ殺三罪二テ酒ヲ飲居タ
タリシ所ニ不見知兵士追テ来タリ候ニ銃発セラレ驚愕シテ茶店ノ裏ヨリ迯出テ山ニ入ル
谷ヲ降リ辛メ免レ候タル由御判不宜我軍兵器ヲ賊ニ奪ハルヽ是ヲ始メナリ

一 赤蜴之號ハ我赤旗数十日之風雨ニ色ヲ失ヘ鬼思方ノ視ニ錢文アリテ彼
蟲ノ背ニ似タリト云ナリ云出タル官軍ニテモ皆雨ヲ称スル由也

一 祇傳之 西久男童名ハ今町 長岡ニ在 北ノ介候ヘ出テ発手レタル由 堀内元治ニ戦死ト説ア
其ノ未ダ的説ヲ不知由 皆降説

田ニ殺サレハ不
得此ヲ馬ヲ下
リ水ニ飛入リテ
逃タリタルト云
説ハ傳迴後
ヲルナリ一説
生児ノ両手ヲ
切ル馬ナリト云
又突ニ参ルヤ

国立国会図書館 タイトル『鬼報録並外録』 請求記号 836-3
ガラス使用

六月十七日

一 六月十七日夕方馬廿六匹ヲ北陣ヘ送ル田信也十餘人ニ護送スルヲ以テ多数ニ什候ノ為ナルヘシ 善ク歩騎連合保探之法不立不熟ニハ是ヨリ狙撃モ遭ヲ免ルヘシ

一 同日屋形ヨリ夕方馬二三匹ヲ賊葉弾薬ヲ北送セル由 出陣者多キハ往ミ所見詰

一 同日午前宇都宮藩ノ卯兵隊ニ早追ニテ被為来賊葉ノ併従之トモ云 然ニ此ヲ以テ来ル譯ト
ニ輸出スルヘシ之ヲ所名全アル一ヲ之サルカ又説ニ長ハ小銃薬包一万ヲ借テルト云

一 是迄所送已ニ二千万ニ及ヘシ 我ニテ其雑徒ヲ憂ルヲ以テ却テ代数不一ノ佐ナルヘシ

一 宇敬何日ノ戸米澤ノ袖章ヲ附タル賊一人ヲ狙撃シテ鼻ノ下人中ヲ打貫タリ命中家勢ト云 其二刀ヲ奪ヒ得タル一刀ハ公ニ納メ銃ハ自得トシ三ノ人ニ分与セシ

一 未ハ中途ニ二ノ精兵ナルヘシ ○或曰云ハ傷ヲ痛シテ賊勢ヲ張ルナラント云由

一 十二日出雲崎ノ戦ニ頗ル苦戦ナシ口賊ヲ追払フル由

一 諸道富蔵帯ト衣ヲ破ラレ肩ヲ撫リ危ク不傷 増田将曹肩ヲ傷ル由

一 金井鎮之進腰ヲ傷一夜戦労シテ山ノ草原ニ数士ト休ミ此ハ弾来ラジトテ皆寝転シテ寝モヤ哈ニ至テ中一丸来リテ中ル 此ハ弾来ルトテ因テ又一丸党ク来リ
テ居所不知係ル打レタルヲ云テ皆是離トニ打居タル金井イヤ某打ナレタリ
左ノ手不覚無シテ石叶ト云タル由 柄ヲ深手ニハ非ス 腰ノ所根ヲ不穿ルトモ

一 金友隆平 雪山ニテ討死シ其他人同シク卯死ナル由 已上出雲崎ノ事ナルヘシ

一 牧大氏野堡中ニテ藩人ト酒ヲ飲居タルニ一銃丸来リ左ノ肩ヲ打貫タル由

一 北征後軍藩ハ二大隊 長州ハ大隊 加州一大隊 越前侯自親出馬一万石ノ由

一 長ト云 隆軍所ハ出雲崎ニ到着セルナリ

一 高田ハ奥州ニ分領六万石有リ 今津ニ背ハ先此地ヲ失ヲ以服従シテ謀ヲ通シテ去ル由

一 説赤澤辺ニ一日両所戦アリ 一方ハ加州一方ハ四木ニ山越ニ二ケ所ニ張ヤタヲ一ツ有トノ事
隆平病兄多ク見兵口ヲ主トスト云ニ兵勢ヲ張盛ルトト云張ヲ一度ト之備人数ヲハ手許ニ

残る巡ら一七人うち四十人も仆れ七十数ヶ所の傷を負ひ
村松 答村松ら八名を引き連れ時事を談じ其八名の
村松ノ一士ら両人ヲ切り孔ヲ以テ近ヨラ
を切り勝ち切り抜け 岩松 鉄砲ら一人ら打殺し二人迄ヲ突き斬殺し
ル や 両ら 打 殺しタルや未ダ ト云。（此説甚ダ
実ハ不然孫二郎首ノ両事ハ云ヘ如キ七ノ
白久八有名ノ侠客ら云ヒ事ヲ実ニ可
武人役ニ不立もの、為ニ多クハ逃ヲ
ノ砲弾ら数、甚ダ、多クルガ 仆 弾或ハ
白久ヒうサル者ハ墨堤ノ陰ニら嘆ニテ眠ら
ハ常ニ弾ヲ ら 弾ノ来ラ不覚ヲ後、七陣ニ
慣ト云慣ニら為メ大ニ驚カレテら後安ら武人ら
先刻ノ話ニ北越 十四日十五日 戦争ニ
清和 源ノ 氏大将ニ人数ら内ニ
殿軍陣頭ヲ賊ニ討破ニ長岡ヲ
事ヲ以テ六番ノ砲中ニ当ラ
乱左右ニ薙倒シ這ノ有様ヲ
ら三百人ヲ もって 討勝ら由ニ
六月十七日
李文宇敬生ニ話ヲ聞ク処ニ其説ニ右ノ時ニ薄数十六人長人八人称ス
十四人ら速疾逃去ル由ニ但実ニ十五日ノ数ノ結局ニ不見果ヲ逸セル
夫 従智香道中鶏札写

六月十五日飯山ヲ侵者之及テ高野撤兵
ヲ称ス所謂 君也
米穀五叉 金銀三十枚
五枚 隊長ヘ 五枚ツヽ 施之
金三千両 惣隊ヘ 外ニ銀五枚 藩之者ヘ
右ヲ為之御手当ヲ 給与候ニ付
タル処
後ヲ年 保護ニ金ヲ与ヘテ 前ヲ為ス
ヲいたしくれ

辰六月十四日越州長岡発足信州松代迄行道
松代藩
新村八重治
伊東前右衛門

北陸道
先鋒
會計方印

人馬并往返賃銭
休泊并旅籠

武器荷
此継人足二拾五人
馬四疋

此證札往来いたし候ハヽ官軍ニ属之者宿駅不行届トテ往外不平を鳴すまじ

十八日

一 宇敷ニ説ニ山新一提手ヲ率ヘセテ二賊ト遭フ提手ハ鉄砲発セントスルヲ留メテ不発
近寄ハ忽チ左ノ腕ヲ切ラレタリ右手ニ刀ヲ抜タルニ手合スルコトナク銃手数ノ返ヲ二
ヲ抑テ物ヲ打ナカリシヤ銃ノ手モ云言ヲ破裏ハ其男ヲ競テハ遣リカリシヲ々ト
ハ云ヲ云タル内腕ノ骨ヲ切リ筋ト皮トヲ ぶらさげ大ニ怒テ 宗ニ告ゲテ 行逢テ視テ
取リテ先ノ手ヲ揚ル様ニ為シ骨ハ稀ヲ早ク除クモノヲ為スナドト云タル由
一 長人ハ尚能発力セラ兼人ハ既ニ傷テ前ノ如ク我ハ其長人ヲ為我死セシテ残人ノ
不待殺スヲ淡蕩ハ狡奥ノ手ヲ僅ニ支ヘテ後軍ヲ待ツ云後軍至ル迄長
支堪ルヤ否ヤ若ハ賊軍ニ新軍五六百ガ官軍ノ弱勢ヲ窺ハ必敗ニ不ノ難免哉
一 昨十六日 関屋蕩ニ 雖三千云人来リ宇元ニ急襲セシテ二手ニ在ル処
支ヘモヤラ淡々仙臺ノ鎮将使参謀 黒田ヲ伺 長品川弥二郎ヲ暗殺シ九條
殿ハ一命ヲ好ミ為ニ称シ実ハ此図ノ如クナリシ 殿下ノ家臣一人辛ク逃テ納

奈之助ヲ召ス云々十九日条ニ見ユ

ト云シ仙台人皆之ヲ追ヒ在京ノ人多シト云ヒテ屋敷ヲ回収セラルヽ由

一 成瀬氏今日条延甲斐ノ赤迫ニ至ル今日ニ及ヒテ追ヒ行ハ何故又二人ヲ召ス云々ト云

一 此殺ス十四五人薩藩ヨリ三所ノ陣屋ヲ襲ヒ抵抗ノ一人ニ減ル故ナリヤ市中ヲ徘徊ス非ス石澤ヲ襲ヒシ二ノ外ニ此殺ス経賊ハ長岡ノ一ノ迫

一 金忠所領雷風留砲ヲ分奪ヒ又ハ破ラントシタル事ヲ不用数ヲ奪ヒ去ル事ヲ但シ放ス事ヲ奪ヒ去ル事ヲ

一 長岡ヲ距ル二里ノ程ノ人家十四軒ヲ焼ク軍勢ヲ以テ焼ク事ヲ

一 今井ノ戦士二人（奥山八十郎 山本直治郎）

一 京都ヨリ関東ヘ引返ス士一〇万余ト云ヒ

一 十一日ノ条砂陣ヨリ送リ所ノ弾薬包又ハ万計ト云ヒ

公夜中迄弾薬ヲ運ヒ（大砲小銃ヲ云ヒ）為ニ昨日ノ疲労ニ此昼ノ

責ニ堪ヘス或ハ未ノ後ニ至リテ発スト云ヒ

条ヲ伝ヘテ両度保倅ノ由ヲ以テ云ヒ

一 長岡藩ノ川井徳次郎家族帰ル事ハ動メ防戦中家中城下町ニ乱入盗賊

ヲ禁ンタル事ヲ申シ川井ハ家老ヲ仰ヲ遣ヒ行ハヽ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

知りて或寺院に隠し置きたる由与板の者ノ村之者其侍僧も深く秘され善秘し置きたるに所謂庫裡
出入の者姫婚を立テ村役人に告ケ役人官軍に訴へたるにより侍僧并主一人と侍
侍僧を係て皆捕囚せられ後ち行方を詮議されは一切不知と云ふ由一夜に於て
一 男ハ平素何しれは寺ノ柄内にて私に天王寺一の如何なる
ならしかし何事やらん存せす

一 宮川六月廿四日出立同十九日着 説得に旗下士之事理を不弁候に不及官軍出陣に先つ
青山近江美濃在陣之戦に決せしは尚或ハ事と一刻を江戸数十万人に迫りたるに
及ひ始テ戦ノ説を唱へ所々に屯集ナトナシテ服従諸隊皆敗走し彰義隊も
上野に屯集せし中にて先の寛永寺に遣テ官軍に抗せしか今日白川口官軍
頗る不利と云説の端出来テ世に流布せしか彰義隊騒テ官軍を悔侮
し往々無礼を為し官軍を侮りて従て十五日一戦に誅鋤せられ

軍ハ一方を知りて不知して為て驕らしめて極めり侍に於て終に顛倒せしめたり
謀甚巧也 其旗下士ハ生来手を拘て事を失し未曾有の事ともと思へ我ノ危難
知らすに内家の事業を失へ人々ハ一切不用にして徒に身を殺す
減し笑を天下後世に遺すに至れり一敗ノ後皆勝を扱し再戦ノ模様なし能ク案
我ま官軍ノ功名を賊し一ヶ勝を経る可し

一 上野之彰義隊連署盟約書を官軍に納めたり是以旗下士ハ一人に至る
捕押へ命を出す旗下士ノ姓名明白なれは早く東京を逐ひ立右は不知らぬくして
追捕に尚ひ候よし

一 新政之政府ノ命従を弁ふ 遠近新政ハ命令せし 新政都而二十諸侯へ 戴せしめ先く禁止せら
ルへき事ナリ新政府ノ政令多く官軍に和し従ふて彰義隊ノ為に人々に惑乱せしと為し
ても旗兵ノ矯情を生て大殺に至り

一 白川ヨリ官軍勝利之説ニ而ハ白川落城ノ時賊ノ首級五百八十三ヲ取ル賊武器ヲ收メ或ハ傷テ後ニ死スル者ハ二千ニ及ヘシ其後モ官軍ハ勝テ進ミ度テ近賊ハ勝負皆逃ル所ハ会津城ヲ距ル八里ノ地ニ迫リタルヨリ不遠会津ハ一ノ敗勢ト

一 官軍ヨリ分捕ノ銃三百拾挺買得タル由

一 北越戦争ハ小千谷ノ結局ニ[illegible]風俗[illegible]地方[illegible]

故ニ[illegible]日[illegible]耳之如キ[illegible]ニテ[illegible]ル不[illegible]ノ例[illegible]テ

時ニ[illegible]度[illegible]テ云ル[illegible]絶テ不知[illegible]軍[illegible]

[illegible]東西共ニ報告セス士卒ノ[illegible]

空スト云ヘシ

一 七[illegible]賊徒侵入[illegible]大[illegible]漁業[illegible]

鯛一口[illegible]銭 [illegible]

[illegible]土人[illegible]七日ニ[illegible]八日ニ鯛[illegible]

[illegible]

又
(七)御分配箇所並諸藩分配共　戊辰六月十二日

出雲崎
柿沢文之助　戦士
金児友太郎　小銃組
柿沢[illegible]
御使役　沢田源五郎
御軍目付　西角玄脩
職寺泊氏集

応援
加州
高田藩
薩州
長州
与板藩

浦瀬
小幡助市

応援
川越
上田藩

海野 寛男
両敵士

土口村 左織
山敵社八郎代
小宮山三土口
大鏡 吉小鏡組

宮下欽次郎

鳥居 直之進
後高 岩鉄太郎

河原理助

堀田逸見
兵箱奉行

人重井弥太夫
四医師

南澤三省

城大見附今町杤尾
見附今町和味方探込ル當時ヲ
敵ヲ巣窟相成ヲ味方一先撰

四国場 薩州
池ノ島 長州

田之岸藩

森之峠 長州
加州

飯田藩

桂澤 大垣藩

奥板

前島七郎
敵士

牧野大左門
招植彦四郎代

牧野功一郎
西小鏡組

大鏡 金児忠兵衛
後役

竹内四友馬
四月目

上原徳之助
四敵名内

吉原一庵
四武芸指南

矢吹左源兵衛

庭後
二本松

尾州
譜代 賀

長州

薩州
鉄ノ峯
加州

三宝山 須坂藩

陣ヶ峯 川藩
御家

飯山藩
宇田藩
奥板藩

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

半蔵金

義川賢之助　小筺組
大沈　関口勇馬
侯役　西山良輔
岩下音之助
日月台　篠崎源之助
此警衛　春原玄三

長岡口　四郎丸関門
櫻井佳人
清水一郎左エ門
西村健夫

應援
加州
尾州
長州
飯田藩
松本藩

長岡口　宮内冥門
綿貫謙蔵
長岡城締方
加州

石内村病陣
隊長
副隊長
軍事方　関野発蔵
竹内金蔵　会計局
矢野脩蔵
丸山就義
石垣亀蔵
侯役　河口左文太
馬場慶人
当分　近藤民弥

関ヶ原村
監軍
此節ハ役人数
言遠
〃
小千谷　会津出張屋
尾州
小出島　会津出張屋
松本藩
高崎藩
長岡神田　軍事
本営

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

小倉藩兵
附属之処

仕国弘人
附属之処

池田子角

長谷川主水
附属之処

同

諸藩本営

六月十二日夕郡謁智其外下口ノ様ス人数矢石ヲ打込ニ両日中加州
藩長敦賀ヨリ後　敦賀従ヲ一万二七千人程モ揃ヘ翌日加州ヨリ
合談所ニ而

右諸藩好隊ヲ配ル石坂宇部ノ両藩ノ所置迄ヤト云

六坂西鹿見高其余ヲ覚書

六月十二日

炎暑甚敷不易避処ヲ伏佐家ヲ初陣情福成ヲ屋ヲ立ノ為ニ仮ニ
心ノ字ト陣ヲ立月廿三日ヲ以テ発ス六月九日越州古志郡半蔵金塁村ニ着改役見ニ
テ表ノ通ノ字ト鉄砲玉薬綿入箱ヲ仮ニ渡ス
ヨリ武具方調役宮川国蔵夜頃
ヨリ出陣当人ヲ此程機会状ヲ書遣中ニ
ヨリ同人ヨリ只今与板ヲ出陣着陣ノ
ノ通ノ字ト成ル事ヲ諸向ヨリ
返輸一ノ着ヲ以上ニ
越ニ不滞様ト
有ル事ヲ
計ニテ亦当時ノ戦争ニ
スツホウダン代ヲ

薩州人ヲ説ク戦争ノ時メリンス一ッ計ラヒ八九人ノ敵ヲ退ケヤハ亦長刀ヲ都
テ極長脇差ヲ差シ短刀ヲ不用就テ中ニ度々出張ヒトモ勇名ノ轟シ居ル者ニ
テ平力平生ニ一ノ手望物ヲ攻ル時ハ自慢ノ左肩ニ此方ノ乳附ヲ
ノ通ラス成ル可ク右ノ手ニテ突ク時ハ
一長岡隆参人拾五人ノ家ノ頭ヲ引上ケ石田村ニ極楽寺ヲ
処ニ善人ヲ引キ其ノ加勢ヲ頼ム事
一村松勘兵衛賊ヲ追ヒ村上家ヲ出ル賊ヲ
山岳新ニ当十九ノ瀬浦ヲ差ス先キニ大ナル賊ヲ人ヲ倒シ人ヲ伏セ
自ラ充ヲ脱セント雖モ組ムヲ以テ相甲ヲ脱セ
俵用意ヲ以テ卜倒シ四人ヲ倒シ其ノ後ニ先キ敵二人ヲ伏セ都合
四人ヲ殺ス事度々ナリト

一説有後ニ不一
敵若勇ヲ取ル
依ニ遁ヒ組ム
ヲ取ラ危カリシ
ヲ長人ニ取ル
免レ助ケヨリ
有度々ナリ

一敵部大ナル者ノ左ヲ着ヲ手板ヲ人ヲ病院ヲ名ヲ主ヲ命ヲ別条ヲ追ヒ
陣ヲ相成ト称ヲ敵ヲ戦ヲ死ヲ者ヲ高サヲ金壱朱ヲ村ヲ追ヒ賊ヲ捕ヲ今夕ヲ戦ヲ
一ノ和成ヲ称ヲ長刀勢ヲ而試ル人加刀ヲ五十人ヲ尽刀一ヲ隊ノ
松平田刻ノ
一長刀勢ヲ一ヲ日中ヲ千人余ヲ着ヲ相成ト称ヲ長ヲ薄中ヲ計ヲ者ヲ戦功
者ヲ名ヲ此ヲ著ヲ得ヲ戦ヲ金額ヲ
一関ヲ加白川ヲ戦ヲ官軍方ヲ手取首数十名余役ヲ
右ハ悪党ノ近頃ヲ至ル此ヲ
候ヲ処ヲ夏ヲ役ヲ後ヲ寒ヲ
陣中ヲ後
候ヲ処ヲ一ノ名ヲ不軍法ヲ
ヲ軒ヲ角ノ
成ヲ
以上

彦兵衛

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

長藩参謀益
山縣狂介
[illegible]

充 武敏 六月十四日北越出雲崎ヨリ発 返書同廿一日達 在陣日記一冊附

先月十八日附ノ御状同廿九日相達 去十日出雲崎ヲ下リ久田村在陣ニ而有見候ニ付 其後之形勢

符牒同様ニテ日々書付候日記差上候 委細ハ右ニ而御判読[illegible] 此頃久田此戦

争中長藩ト手ヲ得ト對話仕候所 奥羽口ハ御趣意九條殿初澤[illegible]

人 先念 仙臺ニ而権威[illegible]何カ一ツ仕ち[illegible]小倉ニ兵

先鋒ニ而諸藩会津一大隊ノ人数仙臺ノ[illegible]追テ[illegible]仙臺勢の外

激シ彼是[illegible]して城下近辺へも不寄付之[illegible]候ニ付[illegible]

ト絶ヘ城下ニ[illegible]其上九條殿下シ而三人ニ方ニ[illegible]

[illegible]城下ニ戦争一向[illegible]仙臺[illegible]

[illegible]後従来之勤 王家[illegible]移リ[illegible]

[illegible]支軍[illegible]上杉[illegible]兵[illegible]

必ず不日ニ引退[illegible]上杉も賊ニ[illegible]又支軍 越地[illegible]所ニ寡

兵ヲ付追ヽ徴兵ハ二[illegible]待テ一戦ニ賊徒[illegible]殺ニ及長藩も千人余[illegible]

化ニ三千二百人[illegible]近くも[illegible]日追[illegible]又軍艦も數艘

[illegible]新潟ヲ襲[illegible]衛[illegible]在れ

[illegible]奥羽ノ[illegible]長人[illegible]

[illegible]雑日記ニ而御承知[illegible]

出雲崎ニ 高野[illegible]

六月十四日認

[illegible]一條久田村在陣[illegible]六七丁[illegible]交[illegible]一時十六[illegible]戦争故

寡兵[illegible]本営[illegible]出雲崎へ加藩ト交代シ休息

[illegible]三条[illegible]或ハ[illegible]賊[illegible]破リ新潟[illegible]

[illegible]

㊀六月十五日夕七ツ時長岡ヲ去十七日晝時著・字數敬之助 弥茂俣ヨリ村条

心礼寺ニテ六月十五日
肩下ヨリ袈ヶ筋胸ヘカケ截ル
ヨリ首モ半ハ尾ヘ歩ヲ五ツ不残

横腰ヨリ

即死

下腰ヨリ

腰ヨリ

金井鉄之進

増田将曲

渡辺寛蔵

会見友大ニ即祖
少村源之助 三十歳
ノ人ヨリ手
伊兵衛

出雲崎
人ヲ一人

六月十五日
十五日ヨリ一昨々日マデ

㊁武敏六月十七日夕北越出雲崎陣中ヨリ書 六月廿四日夕七時達

昨日差出ノ一書ヨリ後何モ申ス事モ無ヲ
経ヶ候ヘドモ必ズ賊ヲ平ラゲ
六月十四日ニ
ント存ジ昨日ヨリ今日ニ至リ賊高田ノ持ノ
墨場ヘ這分不意ノ敵ヲ以テ故何ヲ合図トモ
ナク狼狽一発モ放タズ逃散ル故長岡ノ墨場ヘ
モ最早ヤ取返ス事ハ出来ズ又ヨリ
六月十五日ニ
ノ戦北方ノ山越ノ陳ヘ出張ノ
ヲ以テ今ヨリ大垣ノ持場ヘ迫ル手ハズ
ニ墨場ヨリ来ル敵方ノ人数ヲ以テ二墨
場ヲ取囲ミ大垣ノ持場ヘ迫ル手ハズ
ヲ二不掛敵ヲ迫ル来ル又忽チ手ヲ破リ兵ヲ退散仕リ二昨
六月十五日ニ
夕ノ七ツ時ニ至リ悉ク敵ヲ平ラゲ
ヤレヤレ書状ヲ以テ申上ル事ニ

出迫多ク時ハ何ヲ改スル不ラン、故其時ハ予ラ引キ下ラ今ノ如ク賊ニ仕ル村民ヲシテ官軍ヲ御武威ヲ恐怖セシメ又ハ官軍ヲ欺キ或ハ賊ヲ案内ヲ為シ或ハ賊ニ与シテ官軍ヲ攻撃スル等ノ事ヲ極メテ容易ニ為シ得ベシ

○急報ヲ以テ改進ヲ促ス者ニ付キ

右ノ通

六月十六日

中軍　李陣

右巡章ヲ李陣ヘ差ス可キ事

○先鋒近村ヘ賊兵追ヒ掛ケ来ル時ハ築キ立テ防ク事ヲ務ムベシ、若シ夫レ後ヲ顧ミル事アル時ハ各持口ヲ棄テ敗走スルニ至ル可シ

六月十六日

中軍　李陣

(二)

古六月廿四日暁長岡ヲ川辺十二浬筒隊ヘ賊兵、社多集ル加左右ヲ荒場ヲ不拘大雨ヲ移隊ヲ引退ク家ヲ焼キ立テ家業物ヲ軍士気ニ関係スルヲ以テ焼ス所也ト雖モ、止ヲ得ズ焼ス所也ト雖モ、止ヲ得ズ

右ノ通本営ヲ出テ来ル向ヲ以テ如ク賊ヲ欺キ或ハ賊ヲ案内ヲ為シ或ハ賊ニ与シテ官軍ヲ攻撃スル等ノ事ヲ極メテ容易ニ為シ得ベシ

六月

先鋒

中軍

(一)

右ノ通本営ヲ出テ来ル向ヲ以テ如ク賊ヲ欺キ或ハ賊ヲ案内ヲ為シ或ハ賊ニ与シテ官軍ヲ攻撃スル等ノ事ヲ極メテ容易ニ為シ得ベシ、必死戦ヲ奮励ヲ不怠ヲ可キ事

六月

先鋒

中軍

一、長岡口　兼務ニ付七枚

長岡口出張並兼務ニ付　各藩長官中

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

太政日誌第
十二出

[illegible]
右之通石田侍事陣ノ為ノ利ニ候ニ付
[illegible]
[illegible]
[illegible]

二七

六月廿四日夕

同上長岡勢兩三千人
加州勢兩千人
尾州松代松本各
一小隊ツヽ今宵
寄リ向フ哉何ツ
多伐ロハや

六月廿三日鶏鳴北越長岡石内之軍営所発急報廿四日夕七時松代着報告
大略曰六月廿二日暁賊半蔵鐘（カネ）官軍ノ営ヲ襲ヒ官軍不意ヲ撃レ狼狽
倉卒之ニ応セントス賊四方ノ山岸ニ散布シ要路ヲ塞キ八方ヨリ囲テ
放銃セリ勢殆ト以テ松本隊ノ如ノ両三隊勢放銃一発セス先逃走シ長岡
勢ハ一ゟモ守所ヲ捨テ逃走ス加州勢之進退ハ不知賊俄ニ来テ唯我松川
ノ一小隊ヲ包ミ囲テ攻撃ス富永死シ負者廿人（一ニ云六人）軍監飯沼源四郎
ヲ始メ四（死乱近ク横腹ニ打貫キ）銃手二人（一人即死）夫卒二人並ニ我軍兵粮ニ従
ヲ持アル（此ノ中ニ編）
（一ニ云）ハ四

[illegible]ハ迄（一ニ云八）

弾薬乏キニ実ニ苦戦シテ極メ石内寺院ニ退近且負傷ヲ兵ハ弾薬ヲ備
（四時ニ）従セシトスルモ道路ヲ失ヒ更ニ由テ村民ニ利ヲ借テ一人ツヽ負ヒ陣屋一人
（四時頃）山鵜ト谷ヲ渉リ長道ヲ得テ辛クシテ石内ニ達スル時八ツ時之頃是其
（一説九ツ）（弾薬手負者一人）

苦戦ニ返維兵粮ヲ持テ引返サセ引続藩長三隊我松隊ヲモ
援セシト云長岡ハ半蔵鐘ニ至テ五里程之能為藩兵ニ退ス近キ支援ヲ為ルや
皆死ルヤ廿三日鶏鳴迄従ス者ハ不多シト云
（但砲銃声ハ昼不止ト云リ）
（廿四日七ツ時一所ニ云）
此近日弾薬乏ク我ノ急ナル際ニ彼此ニ持送ル事ニ此地ヨリ一隊ヲ石河散陣
サテマアワシトシ

半蔵鐘

銭地図

の今我人衆氏戊ノ所廿ヶ處之所謂寺板出雲崎浦添寺泊堂及石内也云

一 坂田将曹十二日ノ戦ニ賊丸腰ヨリ股ニ貫キ危シト聞ク之所ニ被傷死ス四

一 吉田鳴ノ夕流ス小林金蔵（三位ニ言ニ廿日石屋内ニ兵粮ヲ運ブ見ヘ弾丸服傷）モ五十日以前ヨリ死ス田

一 奥村三右衛門（ハ三日頃死ス）八人雪ヶ原我陣ヨリ廿日キニ卯年江戸大砲所御屋
のトニ入リ勝ノ術ヲ心得古砲再発セシトテ戦シ不運ニ同席撲ハ更ニ遂ニ討死（ニ）

一 谷ニ沫為蔵ヲ先ト内田状奥羽出張スルモ田勢ノ為ニ遁送ル故ヲ以テ
ある知ニ何ノ所為ク全使作之トソ

一 ㇾ田ノ兵ヲ率ヒ後ヲ絶チ田ヲ焼ラヒ帰ノ途ヲ仮行ノ兵ヲ殺人ニアテ
うれ、こゝもとゝるく次ゝ、夜ニ入ゝ一人三百ゝ、ゝ百ゝ、ゝ百ゝ
ゝれ、こゝゝ百ゝ
一 ㇾ田領ゝ本藩ゝ脱隊ゝ申ゝ云禁止セラヽ外、ゝ知ゝ
半蔵金中ゝ又各藩行ヒ者ゝ長州ト云ヒ
ゞゝ不知、杉孫四ノ口ノ村落ゝ過ル、本藩行ヒ、賊ノ一ノ来通ゝ
近ゝゝ故ニ川端ゝ早ク押寄ル
一 ゝ日来半蔵ニ到ゝ次第ニ付ゝ
ゝ長岡ゝ手通アルヨリ通ラ
埒ヒ杉孫氏四月九日ノ
ト ゝ

三増田将曹傷後左筆、高家厳書 庚辰六月十五日 薨死 年八ヶ

益ゝ衰ヘ ゝ ゝ ゝ ゝ一小隊ニテ以来到着久田村山手ゝ胸
町驛一泊五日ゝ後出雲路ゝ到着 金児友ゝ
壁ヲ築在陣ゝ有明ニ、四日不ゝ出陣ヨリ一里バカリ
病人多有之、後ゝ病気ニ在ゝ得共押ゝ出陣
出雲路ゝ相変ラ、悪寒発熱ニ頭痛強ク
病院ニ引移ラヽ、ゝ人依ヲ来ル、不相得ゝ
暁賊徒押寄注進有之早朝ゝ砲戦初ル得共
ニ処ゝ山手ニ敵布ニ、山田村ゝ山手間道ヨリ海岸ニ向ヘリ海岸加州兵之ニ応セヲ賊
兵ニハ大砲ヲ有之ゝ得ヲ以方ヲヽ多ヲ賊徒益強キヲ以急ニ加州ヲ白砲十二
借受相本私中村ニ発射改ル賊兵破易之際厳敷ヲ機ヲ計リ一之墓場ゝ

飛丁矢石ヲ冒シ進撃手ヲ節右之方山腹ニ賊丸ヲ中リ二ヶ所手負申候尚押テ進
得失行ヲ難堪手負次第墓場ニ退キ手當ヲ致シ候実以切歯之至遺憾千限次
第ニ座候乍去賊勢逐ニ敗走致シ大勢ヲ至リ候ニ付私儀久内村ニテ加州醫官之療
ヲ受暮時当営ニ退キ両角玄修之療治ヲ受候ヘ共傷ハ右ノ手脇丸ノ下ヲ打抜一
ヶ処ハ右ノ腰帯ノ下前ノ方ニ中リ候得共丸ノ有合ハ不申相当帯ヤト迫ニ懸気相
催シ候ニ付外ニ疵ハ無之候得共遠寒ニ感カスリ疵一ヶ処ニ付手ヲ金児隊ノ中
二人ニ助ケ朝通ヲ死ニヤト加州ヲ出ル三宿之賊兵ニテ死傷大凡三十人ニ有之
内両姓ヲ七ヶ敷ニ不及始末ニテ庄内之鉄砲ヲ人生捕ニ致シ
候義気ヲ手ヲ加ヘ候ニ付ヤハリ常ヲ通ヲ不申ヲ以テ必ヲ事ヲ為ト思立ヲ
三ノ夜中野国氏ヲ訪ヒ剣ヲ手ニ両隊長ヲ奈ヲ談ヲ薬等書ヲ旨ヲ以述 佳菓一箱ヲ賜
リ慰問セラレ重畳不堪ヲ銘手ニ至寸功ナリシテ厚賜ヲ仰ヲ慚愧之仕合
益奮激ニ不堪ヲ幸ニシテ賊傷シ得切歯ニ至遺憾千限ニ候ヘ共ヲ
若秀ヲ等ヲ一ノ成ヲ功ヲ而已ヲ
重畳ニ奉存候先ハ取敢ヲ右ノ段ヲ以御届迄ニ如斯ニ御座候以上

後ヲ日ヲ朝ヲ文隊長ヲ会ヲ面ヲ委ヲ細ヲ申ヲ述ヲ候ヲ積ヲ賊情実
後ヲ日ヲ之ヲ儀ヲ十三ノ夜岩下国ヲ着ヲ書状ヲ仕ヲ上ヲ候ヲ右
手負ヲ之ヲ儀ヲ不ヲ申ヲ上ヲ候ヲ事ヲ不ヲ悪ヲ思ヲ召ヲ被ヲ下ヲ度ヲ
此ヲ返ヲ上ヲ遺恨ヲ之ヲ至ヲ申ヲ尊慮ヲ奉ヲ下ヲ度ヲ(度カ)ニ候ヲ以上

六月十五

父上様

将曹

㊀越後在陣小山藤左衛門寄故同僚橋詰嘉六書 戊辰六月十六日發同廿四日達

甚暑之節弥以壮健被遊候事ト存候 然ハ一昨廿四日倉田高順老此地ニ参リ第ノ処
御尊父様ハ急病ニテ終ニ病死出シ由ニ而被葬馬入ハ四日申上候ニ付近ナクハ
上ハ私ハ勿論ノ事ト長ト之厚恩ヲ蒙リ候故時勢ガラ
顔ヲ不拝候ハ至極ノ事ニ戦場ニ羅出ル死出ノ山三津川ノ彩ト存候再ビ家
ニ帰ル事ハ不思議ニ候得共一ト事ニテ帰陣候ハヽ
楽ミニ候ニ付最早此世ヲ永ノ別ト存候ノミニ候ヘバ
以後御疎意ハ何ヲ申迄モ無之候ヘ共御尊父様ハ勿論御兄様ニ
対シ且便リモ自由ヲ不得故存外ニ日数ヲ経候ヘ共
モ別紙ハ悔不申上候間宜敷御願申上候ハヽ追々喰ヲ
申上ハ 将又此地ヨリ形勢荒増申上ハ去月晦日ニ長岡ノ隊長本陣ヲ

うの不都合にが當朔日より相成長岡近在石打と申処へ陣替に相成其日私共同勤之内五人寺沢柳小泉外に津田源五郎は使番兼帯同道郎日出立之関原へ廻り出雲崎へ行候夜仰渡夕七ツ時出立関原へ廻り向前日金児之一小隊関原へ夜九ツ時着同夜明七ツ時出雲崎へ出兵致し田野口警固軍関原へ宿陣へ付警固軍野中良左衛門屋へ面會萬端談ず其夜八ツ過に相成り故に関原へ止宿其処に伊達新十郎琴吹と申る山々嶮一段の彼も至極壮健矢無一すき心意にて羅七長陣に困入由噂致し四役衆より之事の噂一の後下に明れ八二日関原出立出雲崎へ昼後着致し処与板より罷出居し田中力馬青木増太郎両人今未明に与板へ當着先立而持場久田村へ参り居右両人と一番遊軍然ル處金井清八郎長岡へ當日出立夕刻着一同に評議致し処市日付津田源五郎初め何れ羽二三日未明に久田村へ集る方宜る談し其夜出雲崎へ止宿致居少処田中より翌四日未明津田私共五人七張且前六月二日嶋崎へ官軍本陣へ居し賊軍此野といふ処へ陣を居し嶋崎と北野之間直路八丁程誠へつ加の間にて致争持場を和極め加州長州高田与板御家八全児の但替り〳〵當兵を七ツ守り居り処御家八仕合宜長州与相陣にて加州蓮州高田に番を渡しの部に就丁程引取処先方が俄に砲發戦争に相成急ち官軍敗走三家八死失餘程有之由右官軍方より持傷八手ヒ而も甚不宜処故戦利多之由土地之人民と申ても怪家多くて手負ハ多之内夫々繰引引上ケ嶋崎より一里手前久田村に引取居し是ハ三日の事四日ハ私共其節長州系謀伊東傳之助外三人参り場所見分致墓場評議此手ハ出兵之加州御家之内人数計也右加州ハ多人手相見え申ハ久田村と申ハ出雲崎の宿そつれ二十四丁宿中下陣

が八一里余有之出雲崎の町長サ壱里十二丁な一筋町で本長サ町ニ而候
持場図面ニ通久田の条山(城カ)と云ふ海邊ニ小山有り是を加州海邊本道是ニ
加州山手向通番兵是も加州御家ニ山手本道一手ニ而是又雑所ニ人
数ニて持難場所山又山難所と相知れ故寺泊ニ而日々の西頭ニて
色々申込ニ而も取用ひ不申(精々)候ニ付組の者共不服ニ存候得共両
人切之ニ得ニて加州ニ接候故ニ而ニ上下ニ而戦場ニ後ニ
の談合有之候ハ、御上の御為宜かるんと存候ニ付隊長又
小隊使令司ホ別段ニ事ニ候人を遣ふ事手足の如くニ而是ニ事ニ
ん午去 御家ハいつもの通ニて勝利而已ニ而ニ候ニ
御家を不為ニ者の多なり敵ニも直田ニ赤手ニ而ニ恐怖ニ候
田其ハ切ニ甘ニ場即日出来致ニ候其当ニ座向ニ沙汰ニ多ニ候ニ

条ニと妙法寺山妙法寺ニと云ふ日蓮宗大ニ有之小子外ニ組ニ者ニ人召連ニ候
ニ条ニ村田郷ニ而ニ石ニ村ニ段ニ程ニ隔ニ候ニ慶隆村酒屋村迄ニ敵ニ有ニ候ニ
条ニ而ニ此村ニ小島崎迄半道余ニ是ニ賊兵ニ集ニ候ニ其節ニ向ニ子細ニ而
引返申ニ夫ニ当十二日迄ニ条別条持場相守ニ居ニ此間長岡ニ二番ニて行ホ
三ニ亜嶋田一之助等此方ニ泉柳中村長岡ニ帰陣残り四人一番ニ金井清八郎
青年増太郎田中力馬ニ人都合七人右ニ内田中金井寺澤伊木サニ
不快ニ而ニ同松出雲崎ニ在私ニ二三日眼病ニ而ニ其四五日前
五両戦士拾三人其他ハ皆病気ニ而当所ニ(六月)十一日ニ夜半頃ニ出雲崎諸家物騒ニ(六月十二日)
陣ニ而ニ(六月)十一日ニ夜半頃ニ出雲崎諸家物騒ニ(六月十二日)夜明頃ニ仕度ニ
移ニ而ニ伺ニ来ニ而ニ支ニ而ニ不相分ニ故中軍ニ罷出ニ候ニ
押寄ニと申ニ向直ニ同勤伊木田中私三人ニ久有ニ途中ニ砲声頻ニ相聞ニ

い持場ゝて、夜ろ〳〵明敵河近く押寄ん其前村田村郷ゝ内小名落氷村名
ゟ欠付注進致い内久田村寺を下陣ゝ致居ゟ持場ゝ山ゟ下陣迫い五丁程有之注進ゝ
依ゟ不及駈付ゟ敵兵二丁程ゟ近押寄のゟ有此方ゟ砲発ゝ及び戦争ゝ相
成ゟ是ゟ〳〵ゟ兵仕候ゝ青柳島田之士寺澤金井精八郎両人ゝサゝ不収ゝて当
日戦争ゟ不合い日四ツ時頃加州ゟ三十人程加勢ゝ参両家ゟ若武ゟ加州
持場海手ゟ引取合大砲半度砂(ハンド)列発他ゟ湯ゝて山手条山ゝても戦争ゟ加州之
九砲と(知)ト銃申候
持場ゝ河合七丁程ゟ有之当手ゝ二丁程ゟ近くゝて打合九右
ゝ山ゟ(て毋又作音茂)賊徒発砲甚人数ゟ有ゟ故石配ゟとも有ゟと申処久田村ゟ小山を
二ツ越い処久田村ゟ方角ゝ南東ゝ当る此方ゝ加州一小隊ゟ九十人ゟ由羅州
ゟ多隊是ゝ人数不知高田ゟ出兵ゝ由是ゟ引ゝ戦争い此方ゝ片時ゝ河
当手ゝ出雲崎ゝ固有い加州六十人程高田半小隊ゟ十人程追々繰込ゟ

去此二手ゝ場ゝ不臨手合なく然ゟ昼後ゝ及ゝ両方ゝて〳〵無ゟ故田中力馬私
両人ゝて打ゟ平押ゟ押出さんと申出い処ゝ両ゝ一和不致ゟ故
河岸ゟ多隊是ゝ人数不知高田ゟ出兵ゝ由是ゟ引ゝ戦争い此方ゝ片時ゝ河
当手ゝ出雲崎ゝ固有い加州六十人程高田半小隊ゟ十人程追々繰込ゟ
処墓場ゝ人数半ゟ程進軍致ゟ申事直和笑ゟ見の和笑ゝ相違無ゝて笑ゟ
の山手ゝ下程ゟ処ゟ頻ゟ打撃い河横手防ゝ致い横ゝをかまん計ゟ
墓場ゝても押ひの為打撃有い進ゝい人数ゝ金児組十人程加州
十五六人ゟ四十人不足猶跡ゟ十人程此ゟ五番戦士多方ゟ申合進ゟんと致墓
場ゟ一両人乗出ゟ増田貢殿(将曹)ゟ(秘名)ゝて、我ゟ手ゝ玉ゝて手を投ゟゝ(密)
入い夫故サー見合居い内墓場先一丁程有ゟ三十人相見ゝ敵ゟ身方ゟ不相
知甚疑惑致ゟ処ゝ連発致ゟ間此方ゟも
打撃ゟ身方の先ゝ進ゝい者帰ゟ〳〵敵如何致ゟ哉ゟ心配致ゟ処進

ふ人数ハ一旦敵を追掃ひハ漫其人ナ故持こたへ兼右之方
澤通ノ一丁ノ味方ハ横手ヘ引揚ハ後跡ヲ相見れ申ハ追下サヽ打合ノ節ノ人数サ
ヲ後見すうしハと相見ヘ白の旗をふり進めヽと下知ノ取る返ヽハ其人
数元ヽ持場ヘ行又多ク暫ク打合ノ為ニ不叶ヽて不残退散故ノ一手押、
追懸ハ時敵一人生とり是ハ出羽庄内ヽ歩兵金児紐ヽて生とる時ノ加州
ヽ士一人即死頭をみ打ハ切落ヽ敵ノ首をそり
ハ時ノ怪我ハ増田貢(指揮カ)金児ヽ組一人ハ林原助剛を打ち出雲ノ者ヘ引返ハ上
死去是ハ下ノ墓場ヽ葬ヽて土俵ヽも枝頭ノ上面を骨を懸けて
かすりノ為ニ死去金児ヽ家来一人是ハ仇ヽサヽ上衣物ハ破ヽて弱ヽて
打ヽて是ハ格別ノ事ハヽそヽ打ヽ其夜ハ御家富山両手ヽて替ヽ
守ヽ羽ヽ子二日(六月)垂時ヽ相ヽ富山ヽ入替ヽ一先ハ家ヽ人数ハ出雲崎近引ヽ
休ヽ時ハ陣長参謀方ヽ差図ヽ依ヽ引取申ハ引後ノ節富山ノ人数引連れ
仕候寺澤仁手私三人ヽ妙法寺山ノ村田邊引退し十二日ハ賊奥兵糧なく
ハ致ノ妙法寺ヽ立寄兼々ノ始末猶怪我即死ハ不致ノ慶即死ヽ六人有
之怪我ハ二十人程有之ハ申ハ鳶崎ノ恥辱ヽ候し水そゝぐ
歩兵昨十五日久田山生とり場ヽて打負ヽ
立合者ノ始末を致ノ者ハ神主和田馬之助首を切ハ者ハ清野村住宅金
兄ハ銃組両村某とゝヤ者切ヽ生とりノ節ハ者共ヽ
ヽ進ハ敵勢ハ四百人夫人足共五百人ヽ両墓場ヽ先ヽ
久たゝかひヽ追無ヽ両申ハ賊共本筒大砲二ツ持矢ハ
打ハ玉ノ節所ノ外加州ヽ一門ハ御家ヽ一門ハ
薬ヽ者ヽ二ツ共新ヽ玉ヽ一度も不用ヽ

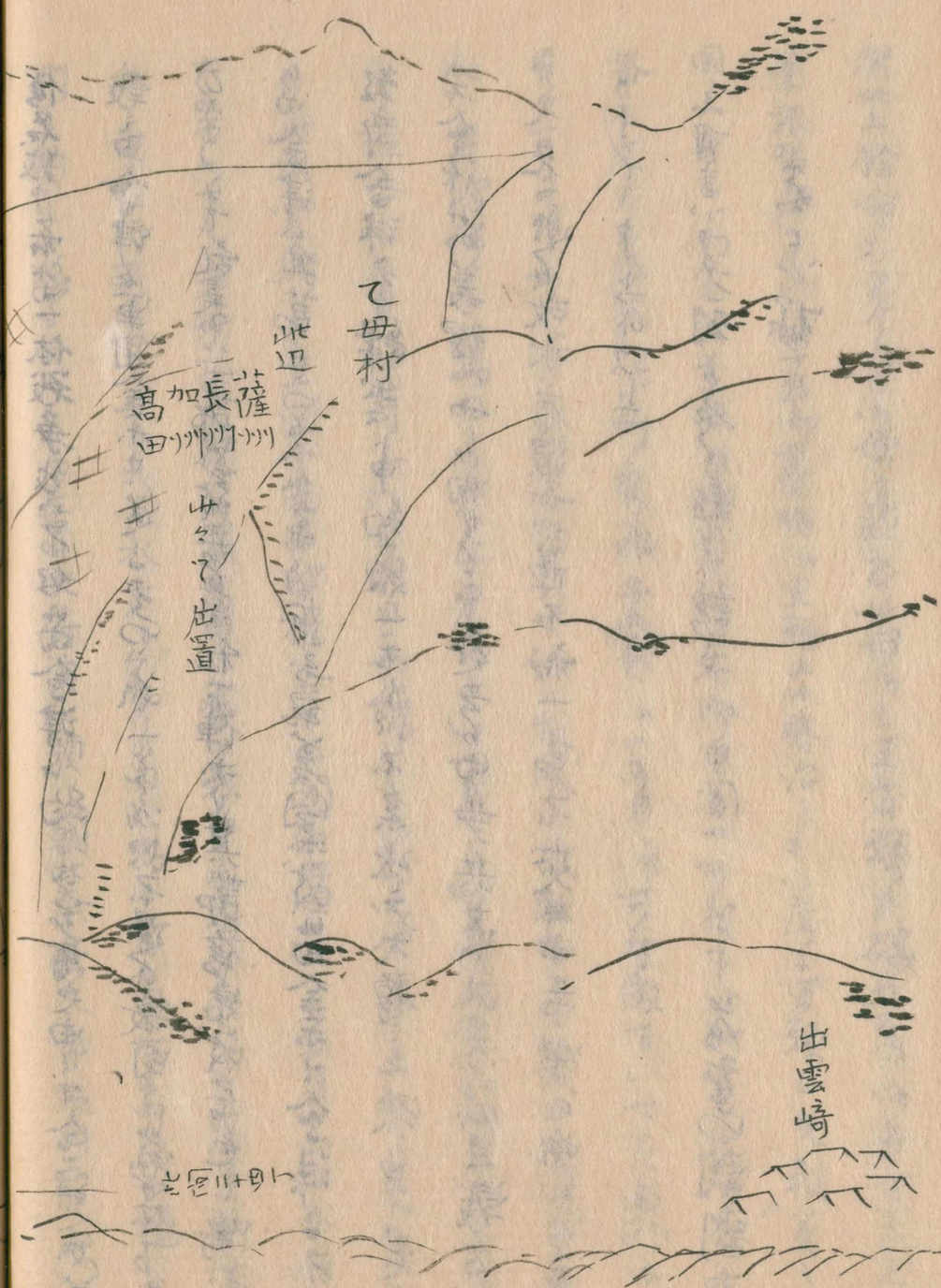
多数賊徒取逃の段々笑落共の後詰有之七八一人も残らず
と人毎に殊念に思ひの此四五日義落も多く蒸気船にて続々
被送候ゆゑ当月末頃高田表の騒擾も久田迄参り候ゆゑ
一向戦争の場不踏仕かね候段心外の至に候
とかく戦争も三里長岡へ
引受候処又戦争与板より新潟へ戦争昨十五日ハ今長岡より
りの者共頻に還文ハ川還通り長岡へ
相成候筈に付私ハ当家族共と毎日雲霧の上
居候事ゆゑ先ハ今の所ハ
生魚喰ひ英気残養共の戦
争後参り候節御詫可申上候間御安心被下度候
四郎殿宇都宮合九人等ハ当月佐藤清四郎殿其外
俄に退陣ハ大谷津小宮山神戸皆杉方より別段書状不参候間何も
上ハ江戸表より不穏成由承り如何ハ哉と
も御勢ひ参り候入の哉若幸便もハ
風聞ハ越後太守近日此地へ御入の由ハ隊長人数ハ三千程当半頃
迄ハ着舟との事ハ先ハ敵勢強く相成候節ハ攻取の長岡還参
覚束候ハ兵を使ふ将ハ得ずと古語の如くハ私共聞及のハいハ雷頭と
ハ青木謹一郎殿新潟富永新平殿ハ松本人澤山ハ
しとハ金児組五番組戦士ハ銃隊組と勢ひ賞と感心致候ハ
金子長と殿ハ先ハ此信と改置の形をハ存の方ハ活潑と序ニ宜頼ハ

従此上餘命も幾ばくも候間、傳之候様頼入候。磯吉事、
筆末ながら、雪君御母堂様へ宜敷上候。勝治へも序を以頼候。先般着之砌長
岡之倉吉へ面会候節、紙并傳言致し右御申聞せ可被下候。此書状之儀、惡
筆不文にいたり、かつ町奉行与申、手当、いたし見せ一切致候ては
見せ一切之事、此人へ、懇意格別せ候手紙、
人へ、寺澤伊吉、鳶田つる之助、芦沢八
ら椎谷へ三里相寄ゟ六里明日二半稽
ゟ出雲崎ゟ二十四丁先石地椎谷と
士三百六十人歩兵二百人程と加州高田之人数と我軍水府歩兵之方敵軍致水府を
舟、乗逃行新潟ゟ上ル夫ゟ水戸へ参り
州之類ゟ拵る下人民申居ゟ水府浪士頭ハ朝比奈弥太郎市川三左衛門両人共

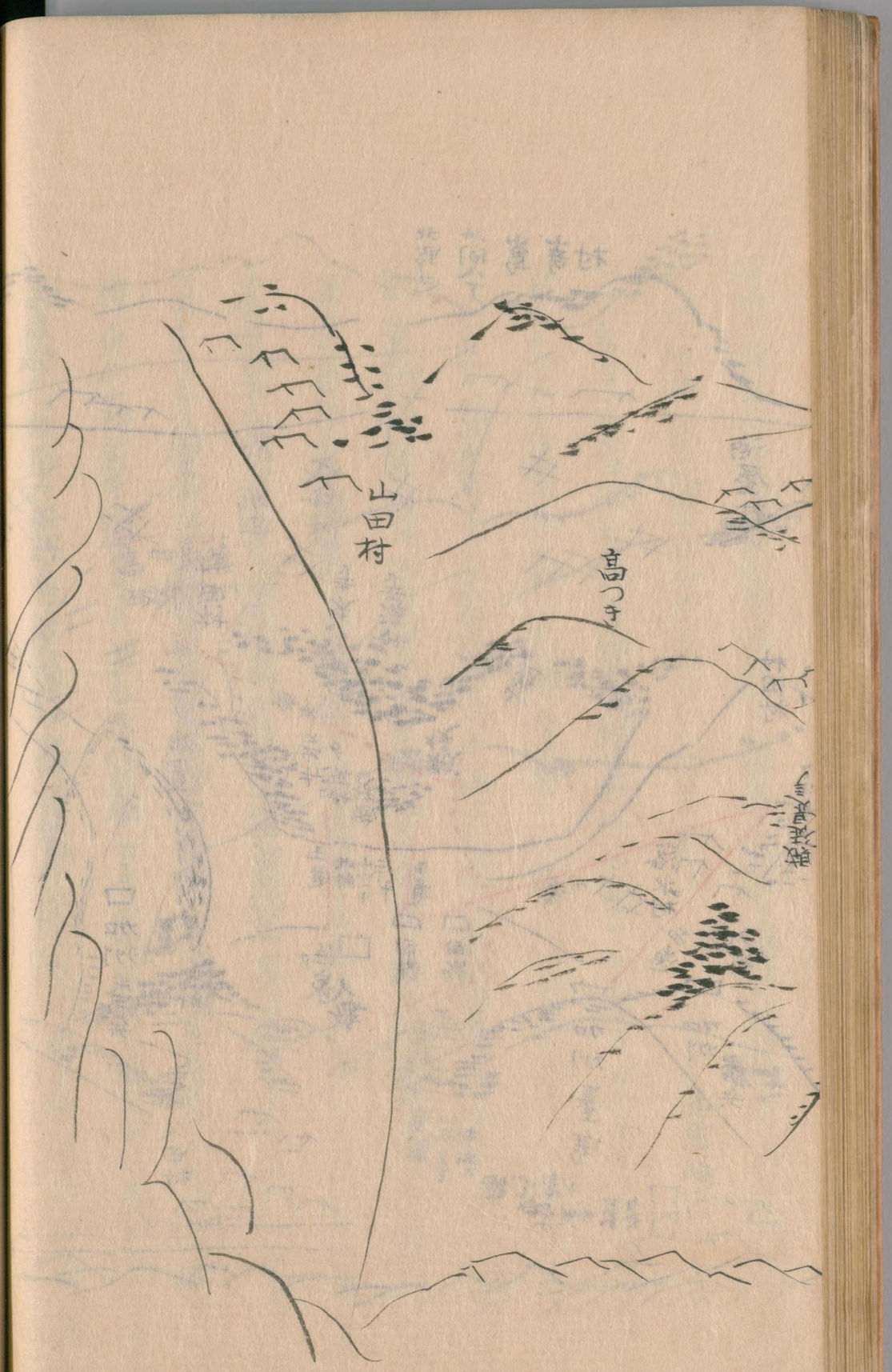
偽名致申居候一体戦争致ハ不好ゟ由会津ゟ
敷ゟ由会津ゟ軍用金ホリ送るとつゝ
ひやうろうて乱暴ハ一部ゟ致居候ゟ由私下陣ホル其節窃ゟ致居候色ゝ噺ホル致
ゟ由会津ハ其節ゟつゝハ人参ゟ居候ゟ
数ホリ会津ゟ縁出ゝ申約ゟ処一ホゟ
ゟ会津ゟの義理ハ十分相立ゟ逃去
ハ人先ゝ逃ゟ故水戸浪士ハ甚不和一
つゝ中ゟ不交ゟ由市中の噺ゟ
六月十六日夕刻ゟ夜ゟ暇ゟ認ゟ

森之助様

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用



薩長土肥こう、戦争の有さま節も道こう、出る行さや

宮さん〳〵みそのまゝにこう〳〵するのハなんちゃいな　そゝし
なるさい相談せいでつまる錦の御旗をそらるいっ　つーそゝし
雨はふる錦旗玉（たま）の　く〳〵邪く〳〵　つーそゝし

命しそーまのさゝうけするのもみんるその為につーそゝし
今は来名のこぬけ士とつち〳〵逃たとゝいふあれ
錦旗もきらいもみんる奇拾剣乗ら逃る行く　つーそゝし

宮さんの通こう、

げいさん〳〵みそのまゝへのこう〳〵そるのハろんちゃいる　つーそゝし
つれハお客をまるそそのちめんの出るのをそるいっ　つーそゝし

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

四五 六月十二日谷小山藤左衛門橋詰を二番目に
只今急便にて申上候 私儀当十九日出発之時出
十九日出発之筈に候処 急病発動候故 残り候
日家の人数も多候てその心ゆえ 右のとおり人数
治る岡本八右衛門 外十人 行候 金井陸八郎 徳田彦八郎
神保多三郎 為田一之助 私を入れ八人の目分当
津端 高安 戸倉 成士 三名 組陸 神宮源
村越軍神 という両士 多候て押切 海軍士 蒸気より大砲打
初発 賊軍甚堅固 寺迄十六人即死外 重傷
をうづ 外 九傷 みな 蒸気船 にのり 加州御家
久田村 より陸の口家の人数も一同 久田村加州の墓場 続 の山沢より

六月廿一日夜長岡勢迫国及本村ヲ焚ク候ヲ見

やめ登りの賊兵引退キ陣ニお成勝軍ニ而翌廿日長岡ニ着廿一日其夜ニ
ハ大黒三俣同鳴水ニ而敵勢ヲ討ル田尾州落長田の口富山加州勢ヲ
夜明近ク合ム私ヲ不始皆日ニ叶ヲ討ハ其合もあるまじ廿一日
炎天故や休居夕刻ニ初め夜ニ入移勢ヲ討ル官軍打勝ヲ
ハ陣ヲ福島村亀カ村稲荷村ニ放火故ニ官軍ヲ甚ダ苦ムキ故ニ落て
閏夜ニ後ヲ慕ヒ追ニ落ヲ追ヒ放大砲ヲ故官軍ヲ甚ダ苦ムキ故ニ落て
村役ヲ望ヲ大ニ驚キ降手ヲ降ヲ来ルヲ以テ官軍ニ而ハ
ヲ不手ヲ長岡の町ヲ焼ル事ヲ不欲ヲ以テ打ヲ
ヲ多ヲ当ル廿一日薄長三百人揃ニ而故ヲ敵ヲ陣ヲ戦ヲ
時刻ニ夜明方ニ賊軍長州ニ追ヲ其ヲ
軍ニ而ヲ同夜四ツ時ニ村役南隣ヲ賊ヲ

廿二日

廿一日

廿ニ日

夜ニ入ヲ初ヲ官軍ヲ賊ヲ大戦ヲ中ニ而ヲ人ヲ賊ヲ
打ル者ヲ人ヲ多ヲ出ヲ之ヲ田ヲ中ヲ此上必ヲ行ヲ我ヲ
ヲ今明方ニ戦ヲ大事ヲ敵ヲ士山ヲ我ニ但ヲ
部合二十九人ヲ賊兵退ヲ田ヲ中ヲ追打ヲ長州ヲ
ヲ之ヲ打ヲ通ヲ下ヲ之ヲ人ヲ此賊ヲ富山村ニ而ヲ出ル賊ヲ
人数ヲ長州ヲ物ニ全程ヲ百ニ余ヲ
探ニ下ヲ之ヲ官軍ヲ猶利ニ而ヲ
ヲ賊ヲ必死ヲ極メ長岡ヲ
ヲ後ヲ
ニ下ヲ夕刻ニ
嘉ヲ様

伊東三之亟か吉之元
八田礼太郎ヽ掛り

只今陽長ヶ伊東八田高之人共義ニ付途中迄参り候処ニ八田高之亟
儀我等ヶ田舎ニ不慣ニ而ハ万一ニ道中ニ而ハ不都合ニ付明朝ヶ出立
ニ而ハ如何ニ付今夜ヶ出立致ス方ニ而ハ如何ニ付今夜ヶ出立致ス方
ニ而ハ如何ニ付今夜ヶ出立致ス方ニ而ハ如何ニ付今夜ヶ出立致ス方

一番遊軍

金弁清八郎　横田彦人　原三四郎　庵野久人
友部孝治郎　佐藤彦蔵　関口二男馬　金弁浅之進
小野亀男　西川堅助　金弁芳郎
海江田武　田中中馬　宇曳熊助
月岡清三郎　八田高之亟　堀内元治　青柳勇助
二番遊軍

小泉浅右衛門　伊東三之亟　八田永太郎
西村重之助　中村栄助　田中左仲治
山崎善兵衛　小山新兵衛　内藤大之輔
平川芳三郎　小山善之助　小山謙二郎
神戸伸蔵　小山久米　大久保長作
山崎久米　河口浅次郎　子爵蜂須賀茂韶
此文義ニ而ハ吉ヶ原ニ而ハ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

(六) 北越與板在陣ノ囚富之進其家翁書

次郎子多分此陣ニ居ト云官軍誰ソレ巖ヲモ押貫ク大山ヲモ踏平ケノ所存発ス
戦場ニ立ツル狐狸ノ多キ領ト共修セヨ又可惜名ヲ汚ス勿レ此条
激発ノ波心處ニ於テ河東ヲモ取ル事ヲ 五月廿六日長ヨリ下見

(七) 与板村落ノ刀ノ戦ヒノ有様報告ノ有夜中長岡表進軍途中近郷宿
ノ婆又ハ傷兵等ヲ右場所勝利ノ饗応ヲ河意後ニ不及前進ヲ為ス
事ノ為押籠戦ノ模ヲ長岡ヲ有右
場ヘ進軍ヲ固メ居ル 同廿七日牧野大右衛門組ヲ交番ヲ
休息ス ノ北八日ノ落刀与板金ク当時場ヲ固メ居ル如何ノ義ヲ過ラシテ
破与板町家ノ二丁半程ヲ家ヲ焼近ク及ヒ甚ノ難戦ヲ有
夜中長岡藏王村ノ川丹ノ手ヲ九ツ時頃與板ヘ
諸方社 諸戦争

罷在り則賊後賊兵と一丁程隔て大合銃丸雨霰の如く芙蓉一点も怪
哉等おもふ一歩も引ことなく勢一度に喊を上り進むや中山承弼芳栄等
打捨皆時に十五六丁処迄引取ける薩摩数回と雖劣故引
取ける芙蓉原村近進に二十四日朝酔羅在銀手細夢(六月)当月朝日迄止時る〻戦
争数度なり明不ヤト雖賊と雖所々島々等賊本営へ朝日早朝に陸続長囲る田
村代金里廻故後を襲ひ其節々板陣(若しくは山)ヶ峯分り進む大道路分り進む原村分り
進む田川向二の渡り答る中軍分の形勢賊軍
ロ々諸方ゟ味方進む事不能乍去島津賊本陣ハ放火味方勝利相成へ共
賊徒深村茅叢る中隠れ居官軍サ人数ゟ地形宜敷ゟ雨サ降ず引
取退陣故ト右故今議有り又ゟ薩摩迄是迄賊兵を打破る計略ゟ
ゟ敵兵諸方ゟサ〻ゟ出ル味方ゟ者ゟ分サゟ雨ハ歳末ゟ見張巡邏改ル
秋ハ薩西五百ゟ長兵五百人越後侯ゟ出張ゟ人数二千人程着ゟ柳成ゟ夫迄進軍を止
メ弦着ゟ上押寄追討可致ゟ支ゟ着ゟ事ゟ夢ゟ事ゟ守ゟ
て大合白眼合ゟ故ゟ味方色々ゟ談有(六月)度々あひやり
町辺砲声放火賊是迄迄ゟ故ゟ右和〻上両ゟ田賊ゟ不意ゟ計ゟ手出利を失ひ
里程引取ル大垣二百人大砲五 彼引連救援ゟ故ゟ芙蓉味方引取の両仁のしとて宜
敷地形ゟ等ゟ故ゟ此節 長岡ゟ一里 十二時大口福井大垣川裏村ゟて戦
争故し右仁ゟ戦人数到ゟ迄守ゟ故ゟ追退不仕戦争ゟ故ゟ右方ゟ先達ゟ
山城勢ゟ人(村松)勢子ゟ人ゟ人少故ゟ切てゟ事ゟ
但ゟ右 河原両度敵場物ゟ回数ゟ事ゟ当花不今以捕戦ゟ不行届心分ゟ極
徹骨嗟残念ゟ事ゟ芙蓉ゟ時節手負ゟ故ゟ事ゟ
筆ゟ好者

高之通

一 同上書通

五月十六日薩長芸州村々ゟ大砲四門ゟ捕ラレ
一 八日長州ゟ無板油山若ク浦山ヘ大砲三門引上ケ
方怪我討死等有之殊ニ多捕申ス計ナシ其後一門ハ取
返ス
一 長岡川井歩兵二味ニテ歩兵共ヲ無板ヘ先ニテ城浦山飯山孝代ト申ス田須坂ト申ス長屋ニ
陣ヲ備ヘ候（借）
一 今二日ゟ長岡ト申ス歩兵ハ不川井長岡ト申ス先ニ方
ゟ先出ヲ宮番ト称メ候ヲ多勢小院百挺ニ方ゟ
表ヘ私ゟ新潟ヘ繰砲ヲ彩ニ小院ニ百挺大砲四門奪有之候
一 今朝ゟ此節ハ上京ノ由ニテ諸家ゟハ手傳ニ相成ヤ申ス十九日雨降

六月

一 當月十四日ゟ降ヲ降ヲ大口村ゟ山越ニテ
男女ヲ共ニ逃掛ケ戦ヲ初メ銃砲ヲ打合多勢討
ヲ分ケ方ヲ見ヲ側ヲ出ル人落ル故山越ヲ引取ル
一 江戸表ニ薩摩ヲ屋ヲ焼ヲ打毀ス
一 戦場討死ノ夫人ニ立近 天子ニ奏聞ニ付建ヲ正永代法事被下候筈
一 村々戦争ニ場家ヲ破損人ヲ代ホ多分方ヲ相當ヲ砂積金人ヲ代ヲ下ヲ
計方今以ヲ表ヘ不参ヲ
一 小諸牧野侯飯山賊侵入ニ節小荷駄迫撃砲飯山ニ危急ヲ捨テ破永峠国

ふとつくの称釋も各そこ引取　朝命速ニ肯ふ官追ニ官軍進撃追討一つのそこ被
并ニ多士経ニ在所ニ御手後ニ役ニ出張ニ預ニ歩ニ出ニ御手配ニ被仰付ニ
御手ニ落ニ成

一　京都ニ在ル長谷川深美軍務官權判事試補ト申ス役ニ出張ニ中ニ
一　初メ小栗ニ賊ニ迫ル故ニ若故ニ安藝守ト称ニ偽ニ
一　羽州米澤侯ト官軍ト説ニ有ニ亦賊ニ人數ニ出ニ
一　高田大口村近辺川代表村賊ノ味方ニ夜討ニ合ニ
方ニ承知被ニ高田大垣尾州土候ヲ始ニ
程押寄ニ付ニ横人ニ藩長共ニ七ニ手待ニ人合ニ旗幟ニ
時ニ大勝利
一　当春北陸道経ニ京都ニ高田ニ御手ニ
實ニ督府ニ御不器量ニ
一　新發田侯ニ勤　王ニ拒ニ
ニ板ニ二十里余ニ
何ニ明ニ勤　王ニ表ニ不分ニ
同微力ニ官軍ニ遠ク討ニ
等ニ只ニ必死ニ
板ヲ唯獨ニ是迄ニ

所謂奥ノ動線ニ変ニ損ニ賊勢ニ増ニ悪宣ニ実ニ此説ノ如シ

致ニ故ニ此節ニ斯ニ
長岡ニ遣ニ
其節新發田ニ
迫ニ北ニ直ニ信州ニ
實ニ督府ニ御不器量ニ
一　新發田侯ニ勤　王ニ拒ニ
ニ板ニ二十里余ニ
何ニ明ニ勤　王ニ表ニ不分ニ
同微力ニ官軍ニ遠ク討ニ
等ニ只ニ必死ニ
板ヲ唯獨ニ是迄ニ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

一先遣の松子共一同、居ル甚場ゟ牧野大左門宿先サ、移手投込、鄭昌取早快案ズル
ニ候、築ヶ出甚場ゟ君ゟ守ル共、節ハ愛ニ弦念ニ案ズ下ヲ君偽ニ共ヲ討ルニモ
君ヲ乱ス之和成ヲ進モ節ル、バヤク多ク東ヲ
一夜具ハ小千谷ゟ赤ケット一枚ヲ以テ御ス
一陣中ル兵食飯食十分酒杯計ヲ仰セ
卯子餘赤飯紙煙艸等ヲ外多ク東ヲ
一諸家皆諸方ゟ配給ル者家杯ヲ諸方ヘ分配被ヲ
ゟ三里出雲崎ヲ宿ス、奥板浦山若ヲ通ル杯植組出居ル申ス杯七雲ヲ七
五月十二日 先遣ヲ出雲崎戦争増田将曹ヲ頁渡意蔵ヲ
一ゟ加藤祥役ル上ヲ亜川袋村朝暑ヲ着ス節ヲ
前田 六月四日 未ダ後詰ヘ中上ル杯慎ゟ仰ヲ被ヲ後詰ヘ後暑ヲ演説ヲ義ヲ
切腹ものニ非ズ

一京都ゟ長岡勅使ゟ来ル被ヲ
一御当家御成敗ニ何レヘ進軍ル
御先祖ヘ御武威御義功故ゟ亦此度ヲ至ヲ
各ヲ賊ヲ真田ヲ弱ヘ故負ヲ
ヤヲ不ル故自然ヲ土民ヲ和ヲ
京町家ヲ者申候六文銭ヲ着ゟ
御祖ヲ御神徳顕ヲ 常君公ヲ御
五月十八日 芝達ヲ無板ヲ夜中通リ
共上弥勉励ヲ一国ヲ主君ヲ一ノ奉
一此表誠ニ不慎ヲ御ヲ時ヲ
一別ヘ薩長昨夜関原ヘ着致ル
薩長二大隊
土州 三大隊

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

紀聞

一江戸市中ハ諸侯方並縁故等添ふあるゆゑ兼而より
ゟ親しハ四官軍稱と稱して通りよき道ゟ通ず四國
ゟ勝ゟ不通由

一旗下士ハ官軍籌ゟ無し、而有ゟ有形ゟ七ツ長屋門ノ脇ゟ吉ゟ等キ家財ゟ有ゟ
出し、依れ者ハ皆ゟ之其法益強益苛後ゟ
定價ゟ拂ゟ如し而有ゟ依れ家ハ皆傳ゟ
ホゟ傳ゟ一ナレ故ゟ士ハ旦那ト呼ゟ亡國ノ情態ゟ哀ゟ
一市無町一旗下士ハ官ゟ籌ゟ拂ゟ
七ツ文ゟ法旦ゟ家ゟ呼ゟ
折ハレ

一六月六七日北陳名敦有ゟ　事皆秘密外聞不得與穏ハ云ゟ一ツ半藏
ゟ籌ゟ(我)ゟ移ゟ之ゟ後熊ゟ、場ゟれ敗ゟ
退ゟ三里許ゟ夜ゟ砲ゟ聞ゟ後ゟ
ホ百餘賊兵官軍ゟ話ゟ衛ゟ一時ゟ籌ゟ
賊ゟ得ゟ本藩行ゟ所ゟ
一夫傳ゟ呼ゟ、載ゟ官ゟ勢ゟ八田ゟ(松平)
等ゟ
一長州ゟ(狂)ゟ作山縣ゟ(ホ)ゟ(賊)ゟ
ゟ七ゟ話ゟ後ゟ
不有人ゟ
一北越大総督ゟ仁和寺宮副総督ゟ

廻しいたし御参府之上ニて申上候

一 高虎同月五日ゟ近江之介頃ニ而御帰府相成候処官軍之軍営ゟ命令有之候ニ付諸藩隊将ヲ召シ候ハ参謀ニ候 参謀無之 以下ハ監軍ト申候監軍ハ参謀之所属ニ候所之ハ家老ニ而為一番役ノ者乃役乃者ヲ以テ得不得候之

一 中外新聞ハ五十ニ而止同令新報ハ四十号ニ而禁止ニ成ル由

一 北海官軍之賊ノ艦並艦一隻ヲ大破ニ成ル由

元 武敏 六月十三日出雲崎発　同廿日朝達

余先般破敵等ニ而廣之相場当地其後格別之事モ無之候処不図追て賊勢相催候様子故去ル六月十九日未明ゟ当方ニ諸手操出シ相成賊塁ヲ砲撃シ打破可申ニ而候賊ハ防御ニハ身を尽し何分以要害之要地ニ而容易ニ破レ兼候方之内人数ハ長之黒気等ニ附ノ鉄ニ五十人ツヽ手分いたし我手進ニ海手ゟ寺山田寄ゟ上陸ニ而砲ノ〆ニ而彼ノ辺海岸ゟ黒気等ニ而発放仕候大砲余り達可故効験も格別ニ無之様子候て下先久田村辺ゟ（是ハ出雲崎山田ノ間村）上陸吾兵弥ニ合し夫ゟ山手近迄寺之分所ゟ凡長之斤候十余人斥候ニ而上陸ニ而申候も五ニ御引揚ケ又兵威ト唯彼ヲ襲ハ無之候威を示し不申ニ付彼ニ見候ハ当方ニ而身ヲ追め一旦賊塁ヲ砲撃いたし候ニ付一ト唯当方のニ近寄ニ而手も無之地勢ニ砲ノ後之又之ニ住地ニ而ニ相成候ニ付一ノ兵威を以て後ニ而再ビ伝ヘ候も無之候ニ人数ハ未加り不申ヘハ惣軍合して攻撃仕り候方と存候其後ハ日々其党ヲ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』 請求記号 836-3
ガラス使用

昼夜砲戦数度に及ぶ双方死傷を示す迄に多く
十二馮 大口より辺八打郭戦争有之候処又昼迄
申ノ賊去迚戦争なく候処六人死傷之者ハ
第一野川より北之方山越ニ而米穀を七俵渡し
候利ニ付候ニ而ハ降参ニ有之間敷候ニ付
○十八日御進一字早朝ニ而ハ
一云十八日の両御営ハ
長岡へ致有之候
旧至夜ニ而ハ御進
軍ニ而ハ
十八日本営ハ帝国ニ而ハ
御先ニ而ハ
別紙
長岡落後速戦ニ而ハ
形勢ニ而ハ
朝廷ニ而ハ
六月十九日
形代
孫七郎一
○ハ
永井
公
朝廷ニ而ハ
一場ニ而ハ好人物ニ而ハ
降参ニ而ハ
お成ニ而ハ
北越出雲崎在陣西村甲太郎書翰抜
此北国気候も殊ニ不順ニ而ハ朝夕ニ而ハ
冷ニ而ハ

もて額ト先戎服を江戸近く申越家故単壹
久田村ニ戦ニ場而氏ら看ら家此ニ十九日ら
屋須為家海ト体ニ氣ニ毎ニ事ニ諸口ニ戦争當時對陣日記ら倣又
方ニる適て銃を打ラ色ニら日景ニ敵ニ戦ニ等ら
ら海岸ニ墓場ニ三ケ所ニ築設ニ迫ニ処ニ有先塋ニ
賊壘を敗ニ可申ニて久田村近隣長加州ニる田秋ら
兵ハ薩ニて薫氣私長州ニ縁我全児細ヤ士壹
先塋氣ニら山田其他賊ニ墓場打ラ
岸ニ墓場ニ賊ニ墓場近十ニ丁程故砲到表ニ中発ニて其功ニ
連山ニ谷深ク茅木多ク中々諸道ニ故多敵一先出嶋
警備教ニ許岳ト諸口ニ皆如斯ニ次第ニ日ニ
信ト家ニ近隣ラ夜ニ至ラ白壮健ニ男子健
ニ家ニ飼山ニ逃今ニ對面ラ好ト又一家ニ倣
好ト先ニ好ニ乱ニ
六月廿三ラ
西村申太ラ
(三)
一
敢為ニ書表ニ本営ニ入人屋ニ此ニ様ニ作ニ
御面倒ニ為ニ存ニ本営ニ一ニ
石井作左衛門
入牢證所
ほ本営
入牢證所
御列座ニ側ニ

千苗幼励之 第一之

六月十二日 ○前日口達之処右両人申受り自書之
趣之七言唱口上之通ニ仕候ニ付ニ而ハ不及口達ニ而ハ
不宜ニ付ニ仕候ニ付ニ而ハ不及口達ニ而ハ

一右之節返り三ツ一ツ筆ニ而返ス処別帳之通
を書く稲葉左右衛門右衛門ニ而右之通ニ而ハ
ニ而ハ不宜ニ付ニ而ハ不及口達ニ而ハ
ニ而ハ不宜ニ付ニ而ハ不及口達ニ而ハ

千苗之内一ツ物まるニ

薩長之兵死スル迄引セ不申加州屋ハ
ニ而ハ不宜ニ付ニ而ハ不及口達ニ而ハ
ニ而ハ不宜ニ付ニ而ハ不及口達ニ而ハ

(三)六月十二日半蔵金戦争之節

右之腰銃瘡深三寸程後有之玉瘡中ニ止故弾摺を以瘡
仕り腰部他部ニ而ハ不宜ニ付ニ而ハ不及口達ニ而ハ
ニ而ハ不宜ニ付ニ而ハ不及口達ニ而ハ

右之乳上ニ而ハ不宜ニ付ニ而ハ不及口達ニ而ハ
ニ而ハ不宜ニ付ニ而ハ不及口達ニ而ハ

右之手指ニ而ハ不宜ニ付ニ而ハ不及口達ニ而ハ
ニ而ハ不宜ニ付ニ而ハ不及口達ニ而ハ

口人迫

右之足向脛ゟ弾丸飛来リ右ヘ入候得共相見ゑ不申玉打込候得共相見ヘ申候痛甚敷候
得共玉内ニ有之候哉も相見不申候故右之通当惑罷在候

同人組
岡田多田之助

右之脇腹ヘ行当リ疵ニ御座候故頭痛療治仕候

夫
嘉吉

右之肩ゟ八寸程通リ背骨之際ニ疵ニ御座候故頭痛療治仕候

右之通ニ御座候

六月廿三日

渋谷玄代

（三）
紀聞

六月廿九日

一 六月廿八日晩渋谷玄代山北陣ゟ御人数新田敵女子之処ニよりて退キ候や右之様
蔵金ハ後ロ山ニ備ヘ候ん村ゟ二十余ヶ賊ヨリ向テ五六町之堡塁ヲ築キ諸長加茂杉本ヲ及。
村里ニ宿営ヲ作リ二三ヶ所ニ備
陣所ハ打テ之故ニ備ヘ候ん
此日筆記ニ付渋谷玄代ニテ本営テハ其中行ニ石川や
内呈至リ手紙廿四日ニ宿一ヶ所ニ御出張ヲ相成
十日
龍
者ゟ女各ゝ落宮ヲ鉄砲ヲ以テ打掛候
候ヲ来リ直ニ視レハ賊二三ヶ所
人行山路ニ備ヘ敵ヲ斧鉈ヲ以テ何ヲ砕壁シ局を隠シ来ル候んや石之本道ハ二十七
今晩陰雨皆霧ニテ引返シ候
四之テ内斎藤人数追々集リ候 道を分テ右山路ヲ攻来リ返打続キ
ル内此所ゟ宮方ゟ番ヘ加ヘ治リ其之 本営并猪苗代ハ取テ此地ニ備
其方ハ大ニ砲ナリトモ云 七月廿五日暁斎藤二ヶ所ニ来リ天明ニ至ルト云
篠崎ハ右ノ重リ撃シ鉄丸内ニ而テ初メハ廿リモ二間ノ口ニテ候ハ右ノ股ニ当リ一寸ホカリ計
内ハ丸ノ在ルヲ本当ヲ探リ取リテ二十一ヶ所ゟ出ト乃申之シ二三夜ヲ経テ斎足其善ナリト云
未知ト云

右之足向脛ゟ弾丸飛来り入候様子ニも相見ゐ玉打ト候ニも相見申候痛甚敷候得共玉ハ右之様ニも相見申候故右之通手当仕置候

右之腰脇行當り疵ニ御座候故順常療治仕候

右之肩ゟ八寸程過肩胛骨之際ニ候申候故順常ニ療治仕候

右之通御座候

六月廿三日

四人組
岡田
田之助

夫
嘉吉

潜谷
玄岱

(三)
紀聞

一 六月廿八日晩治兵衛花山北陣ニ而番所勤メ居候処女子之様成物遠見ニ来リ候や之従之半
蔵全ハ後口山ニ待居候村ゟ二十間程賊ヲ見テ五六町之堡塁ヲ築キ藤長加兵衛松本及
本陣ゟ隊長兵ヲ出シ野営警衛之其外者不残相働ハ村里之宿営ヲ仕候故二ヶ所ニ而ヶ條
然ル後ノ山ニ於テ宿所ノ宿営ヲ無候セリ之ヲ警衛ヲ待之處賊ハ悉ク退之ヶ故不仕候ん
右之女各宿営ニも銃撃セリ候之本陣ゟ此時不佐候ニ付道も視れハ賊二ヶ所
ハ行山頂ニ備ヘ銃撃余程仕何ヲ砲塁ヘ向セ隊ヲ進メ来リ候ニ付やかこの事也以下
今晩隊西舎… 其之内谷隊ハ数十人追ヒ候 野営ニ…
道を分テ右ノ山頂ニ登リ…
…
…
…

八田次吉ハ乱ノ四五其方ノ勝ヘ所遠見ニて当リニ陸後ニ一人ハ右一人ハ殿ヶ砲撃候
其身ハ一方ニ[illegible]ハ一ッの乱ニ[illegible]ヘ東の皆田ト唯山越ハ椀ノ骨金リ切斬セラレ
タル故浪人ん浪も勝ち道ヲ揃ハ届ニ入ヘすトム　去九日朝之事

一 渋谷福住通行之所薩ニ[illegible]ニ被立除せラ見ヘトム皆若伴ニ有之候
一 浪人の勢ハ数モ少れ追々見多く手負勢ハ追々見負候故ニめ今討死成一ぢ
[illegible]薩長勢ハ何分も少ク常よ退兵ト成りて敵ニ逃レ退て引付
れとも気の[illegible]勢ハ宿弁来ラ[illegible]
一 桂澤とや大垣勢共敵ニ乱を度の戦ニて打死二人其外手負十七人有之候由　当藩
ニ手負[illegible]て其外ニ[illegible]あらトム
一 越前若狭公共浪道副ニ而暫く交戦候へ共敵てトテ之由へ陣札張候旨之
とも未人数ハ[illegible]田　大垣藩　仁和寺宮ハ[illegible]　候也返ス下ニ[illegible]

一 何日の[illegible]近頃[illegible]未の[illegible]二人勝道ニて一士ニ追付[illegible]古松代[illegible]形を
其ヲし[illegible]ニて[illegible]叙ト[illegible]刀を抜テ[illegible]寸鉄ヲ不帯
烟管を持て[illegible]候へ共[illegible]直ニ捕ヘ帯ニ縛し引来
タル由　長州[illegible]之トム　又中[illegible]ヲ追テ[illegible]一
[illegible]捕ヘラレ　官軍し[illegible]トソ
一 七月朔日夜[illegible]勢五百[illegible]
昨夜之トム
一 二日[illegible]官軍水原ヲ襲ヘ[illegible]捕[illegible]多之何日ヲ[illegible]
[illegible]水原[illegible]越後[illegible]基礎ノ[illegible]大ニ一の[illegible]
一 三日[illegible]
一 [illegible]
矢[illegible]

七月廿八日

一 薩州禁裏番人ニ付北越ニ而下ノ支配［従人ヲ三百人］来ル由 [illegible] 代 [illegible] 刻 故
見候者モ有之 [illegible] 東田一説ニハ [illegible] 日ニ国行 [illegible]
押ヨリ [illegible] 云 又 [illegible] 事ト云

一 薩州勢 [illegible] 北陸 [illegible] 三日 [illegible]

一 七月廿五日北陣ゟ飛報有之 當朔日二日諸口官軍一同進軍伐入大戦争
有之 [illegible] 人数之内傷者二人 [illegible] 云 [illegible] 蔵金在 [illegible]
之人数ハ枋尾辺［見附之辺］追撃同所ニ布陣ストト云

一 甲州［甲府］ゟ飛脚 [illegible] 田御代官 [illegible] 江城日誌第十五月
之一同條ニ水野侯甲斐御代官 [illegible]
之 [illegible] 右 [illegible] 我 [illegible]
[illegible] 文ニ [illegible] 何 [illegible]

七月廿六日晩

一 北越長岡表中七月三日晩発足五日夕ハ着飛脚［重内］話説福井ノ兵隊ハ右内ヨリ後
之勢ハ [illegible] 加州 [illegible] 富山 [illegible] 川 [illegible] 近 [illegible] 乱 [illegible] 戦
[illegible] 天明 [illegible] 賊 [illegible] 水 [illegible] 川 [illegible]
[illegible] 戦 [illegible] 長州勢 [illegible] 賊 [illegible] 近 [illegible]
[illegible] 賊退去 [illegible] 後 [illegible] 戦 [illegible] 云 [illegible] 近 [illegible]

一 同日米蔵金ハ [illegible] 賊 [illegible] 賊 [illegible] 死 [illegible] 傷 [illegible] 近
[illegible] 不 [illegible] 小異之

一 薩長之後軍 [illegible] 本 [illegible] 候 [illegible]
[illegible] 人ハ [illegible]

一 甲府御代官之 [illegible] 今夕 [illegible]［新御殿へ］申上 [illegible] 朝 [illegible] 何故 [illegible]

一 越後戦争之 [illegible] 状 [illegible] 五月廿七日 [illegible]

一 連合日出之ニ合ス歸日後ニ見ヘタリ三十餘日ヘメ始テ逆スルハ何故ナル且藩長ハ云ル
十日夕十九日ニ至テ連日苦戦ノ文有之尾州江下急ニ此十晝夜尾州上田高田ホ藩救
急ニテ云ヘカラス本藩ノ如キ人数ノ多キ諸藩ヲ絶ルシテ本陣ニ入七ニ係ルヘシ三仏を梨
玉ノ水野ノ遊擊隊我一手ノ力ク且水東牧野諸全以其藩ノ白砲兵等甘カラス矣
又十日夜ノ戦長岡城ヲ取ノ功皆藩長ノ功セシメル不公平ナリ
一 洪言云見今柏崎マテ官軍加州富山高田藩長ト松山口方軍行所尾州ニ合ヤ
総計二千ニ不足ノ兵ヲ本藩ノ兵千ニ及ヘリ 或人云千当十八人ト 然ハ柏崎口ノ勢第一
一 加ノ勢十五日夜ノ戦ハ我兵ノ功東ト云ニ不足ニあらせ
一 坂営鉄書藩長ホニ言ト云ル知己ノ盛ヲ路庵ニ諸侯ノ兵ヲ遣ヒモノトス
加そとるを全ととるも此説専有りとぐし安信を送り戦功を争ラてるよ
一 るハ一の所するれとも士卒必死の忠功を虚くするハ一ヶ惜むきへし是示之文官ホ

星夕

藩人双方ノ解タニ有ニ至ノ一時ヲ支ヘヨリ一方ト云ニ余タ几ラシ

上 報ヲ急クノ故ナル所ヲ若戦闘急ニ及ヒ此ナルハ忽大敗ヲ取ルヘシ文臣坐テ似
之ヲ為スニ至ル信ニ遑アラサルノ怨ナル
一 七月七日藩所勢州治谷敬之度ニ至ル行石ハ従ヲ賜ニ至ル刑事ヲ以テ代官某ヲ殺スヘキ
報告の代ハ迫ル一の事トシテ人トヲ室内行軍ハ改メ到鎮ヲヘル矢ヘシ至宿所ヲ示ス
例之無ク此戦ハ其迄攻撃ヲ野ニ追ル 天野ガ一騎ニ云テ以テ記事若ヘシ
今度東山道下向之節諸軍勢追テ本陣ニ至ル辞キ余気ニ例ノ無キ諸藩
此事ヲ為スハ大ナル過急役ニ思フニハ来テ信ヲ作ス勢ヲ取ラン抜穂沸き
中ヲ路ヨリ来ル 深御道遅ヲ一致ヲ急ス 本藩ハニテ過ナリシテ人馬世話帳ヲ出ス為メ人改兵
一 軍ホ始メ殊更ニ意ヲ用ヒ殊ニヘタル由ヨリ役諸省吏ニ行届キ致計ハ兵トシ
一 藩務先日北道ノ諸藩ハ殊ニ三百五十余人ヲ出セ其人数ヲ上田ニ三番一隊トシテ差遣シテ追ス者ノ諸藩ノ同ニ三所ノ位ノ兵ト云三百余ヲ出スヘシ
一 甲府一隊再ヒ出ス事 ロ五ハ川一学隊出ス五月中城代破ニ 何事ヲ知ル入ヘキ以ヲ候諸家々ハ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

何故ニハ手故右ニ作付一切[illegible]中途ノ私[illegible]ハ[illegible]宗[illegible]ハ又[illegible]付一ノ
[illegible]乃登[illegible]太田[illegible]佛法[illegible]兵[illegible]定[illegible]御行[illegible]一ノ有[illegible]
直[illegible]中[illegible]故ハ右ハ私[illegible]仕[illegible]上[illegible]
[illegible]此儀[illegible]兵[illegible]引[illegible]ハ[illegible]桜是ハ[illegible]
[illegible]事家[illegible]大将今一定[illegible]唯[illegible]深ノ柏[illegible]行[illegible]不久

一 [illegible]金[illegible]戦近頃ノ大捷[illegible]ノ[illegible]賊[illegible]
[illegible]

[illegible]長[illegible]云

一 [illegible]越後小島谷[illegible]二三千石 [illegible]
[illegible]兵[illegible]米二百表[illegible]二百俵[illegible]二口
[illegible]賊徒[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]（太政官日誌ニ出）[illegible]
[illegible]唯諸[illegible]人[illegible]十八[illegible]
[illegible]

一 去月十七日中野右陣[illegible]水[illegible]故[illegible]
[illegible]日中野中之条[illegible]付[illegible]右

（六月七日致）

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』 請求記号 836-3
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

真田両氏
潮川氏ノ社地ヲ通
ス神ニテ奉仕ヲ各
ヲ子ノ為ノ仕時ヨ
ノ石綾方ヲ以テ
ノ恩ヲ報ヒ
ヲ以テ

一 旗下士大小惣テ脇ヲ賜リ勤向ノ節ノ外ハ羽織ヲ着用スヘキ旨ヲ以テ
朝臣ヨリ触ラレ候ニ付テハ皆四民ノ父母ヲ仰ク公儀ニ於テモ
万一ノ節ニ至リ候ハヽ一命ヲ抛チ候ノ覚悟ニ候ヘハ
唯文武実ニ兼備ノ事ニ候ヘハ
朝廷ヨリ
命ヲ蒙リ候ハヽ
勿論ノ事ニ候ヘハ
各得ト
心得ヘキ旨ヲ以テ
仰セ出サレ候事

六月十一日

小宮奉札次ノ裏ニ

堀 基ヲ進

太政官日誌 十五号 三

兄肉藏頭儀於四幕府要路ヲ職ヲ勤居ノ所
先般誅死ノ条全大義名分順逆ヲ明ラカニシ士道ヲ本ヲ貫徹候ノ條
敢感不斜候之今般ヲ家督相続
仰付ノ旨ヲ以テ
御達候

一 江戸上野攻撃ノ時ノ如キ所有ノ兵器、諸藩公私ノ別ナク数ヲ調ヘ取
纏メ差出ス様ニ、尤モ兵火ニ罹リ又ハ破損ノ分ハ其ノ次第ヲ
届ケ出ヘキ旨ヲ以テ
仰セ出サレ候事

六月十一日

御用掛ヲ
朝日屋 小宮長克

一 江戸日本橋ヨリ発シ九州ヲ呑ンとスル
長州中国ヲ呑ンとスル
形勢ハ
八州ヲ呑ンとスル
勢ヒヲ呑ンとスル

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3　　ガラス使用

死ス変事突明白ニ上ヲ追ヒ　御汰ヲ以テ
方ナシ亡兄遺志ヲ體認シ勤　王精励ノ
五月

(五)

一、

六月十二日成勘氏附添　留役中村仲多　物書　倉島弥吉郎　同心　杉本久吉

安兵衛　第三ノ部ヲ書ス　甲斐ヨリ帰ル　三人一ノ通行ト云ヒモ数日
昨月雨ニモ元ヨリ苦労後故ニ　ソレ故ニ
ヨリ一ノ事ニ云ヒヲルヨリ　成ル勘氏面会
ヲシテ　ノ成氏ヲ玉鉾後使奉迎ヲ
軍議ヲ一ヶ所ニ　ヲ以テ行ノ
ヲ名ヲ以テ幸行ハ有名ヲ博徒ヲ
弥ニ上ヲ博徒ヲ幸ニ往キヲ
ヲルヨリ　ヲ成ル勘氏面会
ヲシテ　ノ成氏ヲ玉鉾後使奉迎ヲ
軍議ヲ一ヶ所ニ　ヲ以テ行ノ
ヲ名ヲ以テ幸行ハ有名ヲ博徒ヲ

一

弥ニ十二日ヨリ此ヨリ博徒ヲ以テ行ハ必ヲ
長岡ヲ生擒ヲ殺ス中略生擒各其ノ手ニ
又李奨命捕得ル村松忠右衛門之
武蔵ノ
中ニ載　其軍ニ一通書ヲ上ル
又詩ヲ適食飽ト唱シ俘刑場ニ
伸テ撃レメントシテ行ノ声一二町ヲ
ヲ持テ吸命ヲ固縛セシヲ
所ニ
為レメハ名ヲ
郡陣ニハ生擒シ我ヲ甲ヲ之ヲ
俘囚ニ此ヲ
ヲ村松忠右衛門之残ヲ

村松忠右衛門之残ヲ

其中ニ数ヲ
云ヒヲ
ヲ
ヲ
ヲ

武蔵ノ
中ニ載　其軍ニ一通書ヲ上ル
又詩ヲ適食飽ト唱シ俘刑場ニ
伸テ撃レメントシテ行ノ声一二町ヲ
ヲ持テ吸命ヲ固縛セシヲ
所ニ
為レメハ名ヲ
郡陣ニハ生擒シ我ヲ甲ヲ之ヲ
俘囚ニ此ヲ

其中ニ数ヲ
云ヒヲ
ヲ
ヲ
ヲ

弥ニ十二日ヨリ此ヨリ博徒ヲ以テ行ハ必ヲ
長岡ヲ生擒ヲ殺ス中略生擒各其ノ手ニ
又李奨命捕得ル村松忠右衛門之
武蔵ノ
中ニ載　其軍ニ一通書ヲ上ル
又詩ヲ適食飽ト唱シ俘刑場ニ
伸テ撃レメントシテ行ノ声一二町ヲ
ヲ持テ吸命ヲ固縛セシヲ
所ニ
為レメハ名ヲ
郡陣ニハ生擒シ我ヲ甲ヲ之ヲ
俘囚ニ此ヲ

弥ニ十二日ヨリ此ヨリ博徒ヲ以テ行ハ必ヲ
長岡ヲ生擒ヲ殺ス中略生擒各其ノ手ニ
又李奨命捕得ル村松忠右衛門之
武蔵ノ
中ニ載　其軍ニ一通書ヲ上ル
又詩ヲ適食飽ト唱シ俘刑場ニ
伸テ撃レメントシテ行ノ声一二町ヲ
ヲ持テ吸命ヲ固縛セシヲ
所ニ
為レメハ名ヲ
郡陣ニハ生擒シ我ヲ甲ヲ之ヲ
俘囚ニ此ヲ

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

836
209
3

国立国会図書館　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『鬼報録並外録』　請求記号 836-3

ガラス使用